

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>9.5 原子炉格納容器内の冷却等のための設備</p> <p>9.5.1 概要</p> <p>設計基準事故対処設備が有する原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。また、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備の概略系統図を第9.5.1図から第9.5.6図に示す。</p> <p>9.5.2 設計方針</p> <p>(1) 炉心の著しい損傷防止のための原子炉格納容器内冷却に用いる設備</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備のうち、炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるための設備として以下の重大事故等対処設備(A, B格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却、代替格納容器スプレイ及び移動式大容量ポンプ車を用いたA, B格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却)を設ける。</p> <p>a. フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>(a) A, B格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</p> <p>1 次冷却材喪失事象時において、格納容器スプレイポンプ、燃料取替用水タンク又は格納容器スプレイ冷却器の故障等により原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合の重大事故等対処設備(A, B格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却)として、格納容器換気空調設備のうち格納容器再循環装置のA, B格納容器再循環ユニット並びに原子炉補機冷却水設備のA, B原子炉補機冷却水ポンプ、A原子炉補機冷却水冷却器及び原子炉補機冷却水サージタンク並びに窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用)及び可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)並びに原子炉補機冷却海水設備のA, B海水ポンプを使用する。</p> <p>A, B海水ポンプを用いてA原子炉補機冷却水冷却器へ海水を通水するとともに、原子炉補機冷却水の沸騰防止のため、原子炉補機冷却水サージタンクに窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用)を接続して窒素加圧し、A, B原子炉補機冷却水ポンプによりA, B格納容器再循環ユニットへ原子炉補機冷却水を通水することで格納容器内自然対流冷却ができる設計とする。また、可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)</p>	<p>9.6 原子炉格納容器内の冷却等のための設備</p> <p>9.6.1 概要</p> <p>設計基準事故対処設備が有する原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合において炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。また、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるために必要な重大事故等対処設備を設置及び保管する。</p> <p>また、想定される重大事故等時において、設計基準事故対処設備である残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却系)及び残留熱除去系(サブプレッション・プール冷却系)が健全な場合は、重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備の系統概要図を第9.6-1図から第9.6-8図に示す。</p> <p>9.6.2 設計方針</p> <p>(1) 炉心の著しい損傷防止のための原子炉格納容器内冷却に用いる設備</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備のうち、炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるための設備として重大事故等対処設備(代替格納容器スプレイ冷却系(常設)による原子炉格納容器内の冷却、代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内の冷却、代替循環冷却系による原子炉格納容器内の除熱、残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却系)及び残留熱除去系(サブプレッション・プール冷却系)復旧後の格納容器内の除熱)を設ける。</p> <p>a. フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 代替格納容器スプレイ冷却系(常設)による格納容器内の冷却</p> <p>設計基準事故対処設備である残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却系)の残留熱除去系ポンプの故障等により、原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合の重大事故等対処設備(代替格納容器スプレイ冷却系(常設)による格納容器内の冷却)として常設低圧代替注水系ポンプ及び代替淡水貯槽を使用する。</p> <p>代替淡水貯槽を水源とする常設低圧代替注水系ポンプは、残留熱除去系(B)を介して、原子炉格納容器内にあるスプレイヘッドよりドライウェル内にスプレイできる設計とする。</p> <p>常設低圧代替注水系ポンプは、常設代替交流電源設備である常設代替高圧電源装置から給電できる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設低圧代替注水系ポンプ ・代替淡水貯槽(9.12 重大事故等の収束に必要な水の供給設備) ・常設代替高圧電源装置(10.2 代替電源設備) <p>その他、設計基準事故対処設備である原子炉格納容器を重大事故等対処設備として使用す</p>	<p>備考</p> <p>DB設備使用の明示。</p> <p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p> <p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p> <p>ここから、項目表題は格納容器、文中は原子炉格納容器で使い分け。文中で表題を引用する場合も格納容器を使用する。</p>

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>は、A、B 格納容器再循環ユニット冷却水入口及び出口配管に取り付けられた検出器に接続し、冷却水温度を監視することにより、A、B 格納容器再循環ユニットを使用した格納容器内自然対流冷却の状態を確認できる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A、B 格納容器再循環ユニット ・ A、B 原子炉補機冷却水ポンプ ・ A 原子炉補機冷却水冷却器 ・ 原子炉補機冷却水サージタンク ・ 窒素ポンプ(原子炉補機冷却水サージタンク用) ・ A、B 海水ポンプ ・ 可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)(3号及び4号炉共用)(6.4計装設備(重大事故等対処設備)) <p>原子炉補機冷却海水設備を構成する A、B 海水ストレーナは、設計基準事故対処設備の一部を流路として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。その他、設計基準事故対処設備である非常用電源設備のディーゼル発電機並びに原子炉格納施設の原子炉格納容器並びに非常用取水設備の取水口、取水管路及び取水ピットを重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>(b) 代替格納容器スプレイ</p> <p>1 次冷却材喪失事象時において、格納容器スプレイポンプ、燃料取替用水タンク又は格納容器スプレイ冷却器の故障等により原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合の重大事故等対処設備(代替格納容器スプレイ)として、常設電動注入ポンプ、非常用炉心冷却設備の燃料取替用水タンク及び2次系補給水設備の復水タンクを使用する。</p> <p>燃料取替用水タンク又は復水タンクを水源とする常設電動注入ポンプは、格納容器スプレイ系統を介して、原子炉格納容器内上部にあるスプレイリングのスプレイノズルより原子炉格納容器内に水を噴霧できる設計とする。常設電動注入ポンプは、ディーゼル発電機に加えて、代替電源設備である大容量空冷式発電機より重大事故等対処用変圧器受電盤及び重大事故等対処用変圧器盤を経由して給電できる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常設電動注入ポンプ ・ 燃料取替用水タンク ・ 復水タンク ・ 大容量空冷式発電機(10.2 代替電源設備) ・ 重大事故等対処用変圧器受電盤(10.2 代替電源設備) ・ 重大事故等対処用変圧器盤(10.2 代替電源設備) <p>その他、設計基準事故対処設備である非常用電源設備のディーゼル発電機及び原子炉格納施設の原子炉格納容器を重大事故等対処設備として使用する。</p>	<p>る。</p> <p>(b) 代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による格納容器内の冷却</p> <p>残留熱除去系ポンプの故障等により原子炉格納容器内の冷却機能喪失又はサプレッション・プールが機能喪失した場合の可搬型重大事故等対処設備(代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による格納容器内の冷却)として可搬型代替注水大型ポンプ、代替淡水貯槽、燃料補給設備である可搬型設備用軽油タンク、タンクローリを使用する。</p> <p>代替淡水貯槽を水源とする可搬型代替注水大型ポンプは、東側接続口、西側接続口、高所東側接続口又は高所西側接続口にホースを接続し、残留熱除去系(A)又は(B)を介して、原子炉格納容器内にあるスプレイヘッドよりドライウェル内にスプレイできる設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプは、ディーゼルエンジンにて駆動できる設計とし、燃料は可搬型設備用軽油タンクからタンクローリを用いて補給できる設計とする。</p> <p>代替淡水貯槽、北側淡水池、高所淡水池の淡水が枯渇した場合は、防潮堤内側の取水箇所(SA用海水ポンプピット)から可搬型代替注水大型ポンプを用いて補給可能な設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 可搬型代替注水大型ポンプ ・ 代替淡水貯槽(9.12 重大事故等の収束に必要な水の供給設備) ・ 可搬型設備用軽油タンク(10.2 代替電源設備) ・ タンクローリ(10.2 代替電源設備) <p>その他、設計基準事故対処設備である原子炉格納施設の原子炉格納容器を重大事故等対処</p>	<p>備考</p> <p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>b. サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 移動式大容量ポンプ車を用いた A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</p> <p>全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合の重大事故等対処設備(移動式大容量ポンプ車を用いた A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却)として、格納容器換気空調設備のうち格納容器再循環装置の A, B 格納容器再循環ユニット並びに移動式大容量ポンプ車、燃料油貯蔵タンク、タンクローリ及び可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)を使用する。</p> <p>海を水源とする移動式大容量ポンプ車は、A, B 海水ストレートブロー配管に可搬型ホース</p>	<p>設備として使用する。</p> <p>(C) 代替循環冷却系による格納容器内の除熱</p> <p>残留熱除去系ポンプの故障等により原子炉格納容器内の除熱機能が喪失した場合の重大事故等対処設備(代替循環冷却系による格納容器内の除熱)として、代替循環冷却系ポンプ、サブプレッション・プール、残留熱除去系熱交換器(A)及び緊急用海水ポンプ又は残留熱除去系海水ポンプを使用する。</p> <p>サブプレッション・プールを水源とする代替循環冷却系ポンプは、残留熱除去系熱交換器(A)によりサブプレッション・プール水を冷却し、残留熱除去系(A)を介して、原子炉格納容器内にあるスプレイヘッドからドライウェル内にスプレイできる設計とする。</p> <p>残留熱除去系熱交換器(A)の冷却用海水は、緊急用海水系の緊急用海水ポンプ又は残留熱除去系海水系の残留熱除去系海水ポンプからの海水を使用する。また、緊急用海水ポンプの流路として非常用取水設備のSA用海水ピット取水塔、海水引込み管及びSA用海水ピットを、残留熱除去系海水ポンプの流路として非常用取水設備の貯留堰及び取水路を使用する。</p> <p>代替循環冷却系ポンプ及び緊急用海水ポンプは、常設代替交流電源設備である常設代替高圧電源装置から給電できる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代替循環冷却系ポンプ ・残留熱除去系熱交換器(A)(5.4 残留熱除去系) ・サブプレッション・プール(9.12 重大事故等の収束に必要な水の供給設備) ・残留熱除去系海水ポンプ(5.4 残留熱除去系) ・緊急用海水ポンプ(5.11 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備) ・常設代替高圧電源装置(10.2 代替電源設備) <p>その他、設計基準事故対処設備である原子炉格納施設の原子炉格納容器及び非常用交流電源設備である非常用ディーゼル発電機を重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>b. サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却系)復旧後の格納容器内の除熱</p> <p>全交流動力電源喪失等によるサポート系の故障により、残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却系)が原子炉格納容器内の除熱機能を喪失した場合の重大事故等対処設備(常設代替交流電源設備による残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却系)復旧後の格納容器内の除熱)として、常設代替高圧電源装置、残留熱除去系ポンプ、サブプレッション・プール、残留熱除去系熱交換器及び残留熱除去系海水ポンプを使用する。</p> <p>サブプレッション・プールを水源とする残留熱除去系ポンプは、常設代替交流電源設備である常設代替高圧電源装置からの給電により機能を復旧し、残留熱除去系熱交換器を介してサ</p>	<p>備考</p> <p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p> <p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p>

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>を接続、又は海水母管戻り配管を取り外して可搬型ホースを接続し、原子炉補機冷却水系統を介して、A、B格納容器再循環ユニットへ海水を直接供給することで格納容器内自然対流冷却ができる設計とする。また、可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)は、A、B格納容器再循環ユニット冷却水入口及び出口配管に取り付けられた検出器に接続し、冷却水温度を監視することにより、A、B格納容器再循環ユニットを使用した格納容器内自然対流冷却の状態を確認できる設計とする。</p> <p>移動式大容量ポンプ車の燃料は、燃料油貯蔵タンクよりタンクローリを用いて補給できる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A、B格納容器再循環ユニット ・移動式大容量ポンプ車(3号及び4号炉共用) ・燃料油貯蔵タンク(重大事故等時のみ3号及び4号炉共用)(10.2 代替電源設備) ・タンクローリ(3号及び4号炉共用)(10.2 代替電源設備) ・可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)(3号及び4号炉共用)(6.4 計装設備(重大事故等対処設備)) <p>原子炉補機冷却海水設備を構成するA、B海水ストレーナ及び原子炉補機冷却水設備を構成するA原子炉補機冷却水冷却器は、設計基準事故対処設備の一部を流路として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。その他、設計基準事故対処設備である原子炉格納施設の原子炉格納容器並びに非常用取水設備の取水口、取水管路及び取水ピットを重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>(b) 代替格納容器スプレイ</p> <p>全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合の重大事故等対処設備(代替格納容器スプレイ)として、常設電動注入ポンプ、非常用炉心冷却設備の燃料取替用水タンク及び2次系補給水設備の復水タンクを使用する。</p> <p>燃料取替用水タンク又は復水タンクを水源とする常設電動注入ポンプは、格納容器スプレイ系統を介して、原子炉格納容器内上部にあるスプレイリングのスプレイノズルより原子炉格納容器内に水を噴霧できる設計とする。常設電動注入ポンプは、代替電源設備である大容量空冷式発電機より重大事故等対処用変圧器受電盤及び重大事故等対処用変圧器盤を経由して給電できる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設電動注入ポンプ ・燃料取替用水タンク ・復水タンク ・大容量空冷式発電機(10.2 代替電源設備) ・重大事故等対処用変圧器受電盤(10.2 代替電源設備) ・重大事故等対処用変圧器盤(10.2 代替電源設備) 	<p>プレッション・プール水を冷却し原子炉格納容器内にあるスプレイヘッドより、ドライウェル内及びサプレッション・チェンバ内にスプレイできる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系ポンプ(5.4 残留熱除去系) ・残留熱除去系熱交換器(5.4 残留熱除去系) ・サプレッション・プール(9.12 重大事故等の収束に必要な水の供給設備) ・残留熱除去系海水ポンプ(5.4 残留熱除去系) ・常設代替高圧電源装置(10.2 代替電源設備) <p>その他、設計基準事故対処設備である原子炉格納施設の原子炉格納容器を重大事故等対処設備として使用する。また、残留熱除去系海水ポンプの流路として非常用取水設備である貯留堰及び取水路を使用する。</p> <p>(b) 残留熱除去系(サプレッション・プール冷却系)復旧後のサプレッション・プール水の除熱</p> <p>全交流動力電源喪失等によるサポート系の故障により残留熱除去系(サプレッション・プール冷却系)が機能喪失した場合の重大事故等対処設備(常設代替交流電源設備による残留熱除去系(サプレッション・プール冷却系)復旧後のサプレッション・プール水の除熱)として、常設代替高圧電源装置、残留熱除去系ポンプ、サプレッション・プール、残留熱除去系熱交換器及び残留熱除去系海水ポンプを使用する。</p> <p>サプレッション・プールを水源とする残留熱除去系ポンプは、常設代替交流電源設備である常設代替高圧電源装置からの給電により機能を復旧し、残留熱除去系熱交換器を介して、サプレッション・プール水を除熱できる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系ポンプ(5.4 残留熱除去系) ・残留熱除去系熱交換器(5.4 残留熱除去系) ・サプレッション・プール(9.12 重大事故等の収束に必要な水の供給設備) ・残留熱除去系海水ポンプ(5.4 残留熱除去系) ・常設代替高圧電源装置(10.2 代替電源設備) 	<p>備考</p> <p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p>

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>その他、設計基準事故対処設備である原子炉格納施設の原子炉格納容器を重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>(2) 原子炉格納容器内の冷却機能が喪失していない場合における原子炉格納容器内の圧力及び温度低下炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるための設備として以下の重大事故等対処設備（格納容器スプレイ及び格納容器スプレイ再循環）を設ける。</p> <p>a. 格納容器スプレイ</p> <p>格納容器スプレイポンプ及び燃料取替用水タンクによる原子炉格納容器内の冷却機能が喪失していない場合の重大事故等対処設備（格納容器スプレイ）として、原子炉格納容器スプレイ設備の格納容器スプレイポンプ及び非常用炉心冷却設備の燃料取替用水タンクを使用する。</p> <p>燃料取替用水タンクを水源とする格納容器スプレイポンプは、原子炉格納容器内上部にあるスプレイリングのスプレイノズルより原子炉格納容器内に水を噴霧できる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・格納容器スプレイポンプ ・燃料取替用水タンク <p>原子炉格納容器スプレイ設備を構成する格納容器スプレイ冷却器は、設計基準事故対処設備の一部を流路として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。その他、設計基準事故対処設備である非常用電源設備のディーゼル発電機及び原子炉格納施設の原子炉格納容器を重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>b. 格納容器スプレイ再循環</p> <p>格納容器スプレイポンプ及び格納容器スプレイ冷却器による原子炉格納容器内の冷却機能が喪失していない場合の重大事故等対処設備（格納容器スプレイ再循環）として、原子炉格納容器スプレイ設備の格納容器スプレイポンプ及び格納容器スプレイ冷却器並びに格納容器再循環サンプ及び格納容器再循環サンプスクリーンを使用する。</p> <p>格納容器再循環サンプを水源とする格納容器スプレイポンプは、格納容器スプレイ冷却器を介して原子炉格納容器内上部にあるスプレイリングのスプレイノズルより原子炉格納容器内に水を噴霧できる設計とする。格納容器再循環サンプスクリーンは、高圧注入ポンプ、余熱除去ポンプ及び格納容器スプレイポンプの有効吸込水頭を確保できる設計とする。</p>	<p>その他、設計基準事故対処設備である原子炉格納施設の原子炉格納容器を重大事故等対処設備として使用する。また、残留熱除去系海水ポンプの流路として非常用取水設備である貯留堰及び取水路を使用する。</p> <p>(2) 残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却系）による格納容器内の除熱及び残留熱除去系（サブプレッション・プール冷却系）によるサブプレッション・プール水の除熱</p> <p>設計基準事故対処設備の機能が喪失していない場合における原子炉格納容器内の圧力及び温度低下炉心の著しい損傷を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるための設備として重大事故等対処設備（残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却系）による格納容器内の除熱及び残留熱除去系（サブプレッション・プール冷却系）によるサブプレッション・プール水の除熱）を設ける。</p> <p>a. 残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却系）による格納容器内の除熱</p> <p>残留熱除去系ポンプ及びサブプレッション・プールによる原子炉格納容器内の除熱機能が喪失していない場合の重大事故等対処設備（残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却系））として残留熱除去系ポンプ、サブプレッション・プール及び残留熱除去系熱交換器並びに残留熱除去系海水ポンプを使用する。</p> <p>サブプレッション・プールを水源とする残留熱除去系ポンプは、残留熱除去系熱交換器を介してサブプレッション・プール水を冷却し、原子炉格納容器内にあるスプレイヘッドより、ドライウエル内及びサブプレッション・チェンバ内にスプレイできる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系ポンプ（5.4 残留熱除去系） ・残留熱除去系熱交換器（5.4 残留熱除去系） ・サブプレッション・プール（9.12 重大事故等の収束に必要となる水の供給設備） ・残留熱除去系海水ポンプ（5.4 残留熱除去系） <p>その他、設計基準事故対処設備である非常用交流電源設備の非常用ディーゼル発電機及び原子炉格納容器を重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>b. 残留熱除去系（サブプレッション・プール冷却系）によるサブプレッション・プール水の除熱</p> <p>残留熱除去系ポンプ及びサブプレッション・プールによる原子炉格納容器内の除熱機能が喪失していない場合の重大事故等対処設備（残留熱除去系（サブプレッション・プール冷却系））として残留熱除去系ポンプ、サブプレッション・プール、残留熱除去系熱交換器、残留熱除去系海水ポンプを使用する。</p> <p>サブプレッション・プールを水源とする残留熱除去系ポンプは、残留熱除去系熱交換器を介して、サブプレッション・プール水を冷却できる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系ポンプ 	<p>備考</p> <p>設備の相違。 （先行BWR及び技術的能力との整合）</p> <p>設備の相違。 （先行BWR及び技術的能力との整合）</p>

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・格納容器スプレイポンプ ・格納容器スプレイ冷却器 ・格納容器再循環サンプ ・格納容器再循環サンプスクリーン <p>その他、設計基準事故対処設備である非常用電源設備のディーゼル発電機及び原子炉格納施設の原子炉格納容器を重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>(3) 格納容器破損を防止するための原子炉格納容器内冷却に用いる設備</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備のうち、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるための設備として以下の重大事故等対処設備(A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却、代替格納容器スプレイ及び移動式大容量ホンプ車を用いた A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却)を設ける。</p> <p>a. フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>(a) A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</p> <p>1次冷却材喪失事象時に格納容器スプレイポンプ又は燃料取替用水タンクの故障等により原子炉格納容器内の冷却機能が喪失し、炉心の著しい損傷が発生した場合の重大事故等対処設備(A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却)として、格納容器換気空調設備のうち格納容器再循環装置の A, B 格納容器再循環ユニット並びに原子炉補機冷却水設備の A, B 原子炉補機冷却水ポンプ、A 原子炉補機冷却水冷却器及び原子炉補機冷却水サージタンク並びに窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用)及び可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)並びに原子炉補機冷却海水設備の A, B 海水ポンプを使用する。</p> <p>A, B 海水ポンプを用いて A 原子炉補機冷却水冷却器へ海水を通水するとともに、原子炉補機冷却水の沸騰防止のため、原子炉補機冷却水サージタンクに窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用)を接続して窒素加圧し、A, B 原子炉補機冷却水ポンプにより A, B 格納容器再循環ユニットへ原子炉補機冷却水を通水することで格納容器内自然対流冷却ができる設計とする。また、格納容器内自然対流冷却と併せて代替格納容器スプレイを行うことにより放射性物質濃度を低下できる設計とする。</p> <p>可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)は、A, B 格納容器再循環ユニット冷却水入口及び出口配管に取り付けられた検出器に接続し、冷却水温度を監視することにより、A, B 格納容器再循環ユニットを使用した格納容器内自然対流冷却の状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系熱交換器 ・サプレッション・プール (9.12 重大事故等の収束に必要な水の供給設備) ・残留熱除去系海水ポンプ <p>その他、設計基準事故対処設備である原子炉格納施設の原子炉格納容器及び非常用交流電源設備の非常用ディーゼル発電機を重大事故等対処設備として使用する。また、残留熱除去系海水ポンプの流路として非常用取水設備である貯留堰及び取水路を使用する。</p> <p>(3) 格納容器破損を防止するための原子炉格納容器内除熱に用いる設備</p> <p>原子炉格納容器内の除熱等のための設備のうち、炉心の著しい損傷が発生した場合において原子炉格納容器の破損を防止するため、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるための設備として以下の重大事故等対処設備(代替格納容器スプレイ冷却系(常設)による原子炉格納容器内の冷却、代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内の冷却、代替循環冷却系による原子炉格納容器内の除熱、残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却系)復旧後の格納容器内の除熱及び残留熱除去系(サプレッション・プール冷却系)復旧後の格納容器内の除熱)を設ける。</p> <p>a. フロントライン系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 代替格納容器スプレイ冷却系(常設)による格納容器内の冷却</p> <p>残留熱除去系ポンプの故障等により原子炉格納容器内の除熱機能が喪失し、炉心の著しい損傷が発生した場合の重大事故等対処設備(代替格納容器スプレイ冷却系(常設)による格納容器内の冷却)は、「9.6.2(1) a. (a) 代替格納容器スプレイ冷却系(常設)による格納容器内の冷却」と同じである。</p>	<p>備考</p> <p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p> <p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p>

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備，運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>態を確認できる設計とする。</p> <p>具体的な設備は，以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A, B 格納容器再循環ユニット ・A, B 原子炉補機冷却水ポンプ ・A 原子炉補機冷却水冷却器 ・原子炉補機冷却水サージタンク ・窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用) ・A, B 海水ポンプ ・可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)(3号及び4号炉共用)(6.4計装設備(重大事故等対処設備)) <p>原子炉補機冷却海水設備を構成するA, B海水ストレーナは，設計基準事故対処設備の一部を流路として使用することから，流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。その他，設計基準事故対処設備である非常用電源設備のディーゼル発電機並びに原子炉格納施設の原子炉格納容器並びに非常用取水設備の取水口，取水管路及び取水ビットを重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>(b) 代替格納容器スプレイ</p> <p>1 次冷却材喪失事象時に格納容器スプレイポンプ又は燃料取替用水タンクの故障等により原子炉格納容器内の冷却機能が喪失し，炉心の著しい損傷が発生した場合の重大事故等対処設備(代替格納容器スプレイ)は，「9.5.2(1)a.(b)代替格納容器スプレイ」と同じである。</p> <p>b. サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 移動式大容量ポンプ車を用いたA, B格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</p> <p>全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能が喪失し，炉心の著しい損傷が発生した場合の重大事故等対処設備(移動式大容量ポンプ車を用いたA, B格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却)として，格納容器換気空調設備のうち格納容器再循環装置のA, B格納容器再循環ユニット並びに移動式大容量ポンプ車，燃料油貯蔵タンク，タンクローリ及び可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)を使用する。</p> <p>海を水源とする移動式大容量ポンプ車は，A, B海水ストレーナブロー配管に可搬型ホースを接続，又は海水母管戻り配管を取り外して可搬型ホースを接続し，原子炉補機冷却水系統を介して，A, B格納容器再循環ユニットへ海水を直接供給することで格納容器内自然</p>	<p>(b) 代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による格納容器内の冷却</p> <p>残留熱除去系ポンプの故障等により原子炉格納容器内の除熱機能が喪失し，炉心の著しい損傷が発生した場合の可搬型重大事故等対処設備(代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による格納容器内の冷却)は，「9.6.2(1)a.(b)代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による格納容器内の冷却」と同じである。</p> <p>(c) 代替循環冷却系による格納容器内の除熱</p> <p>残留熱除去系ポンプの故障等により原子炉格納容器内の除熱機能が喪失した場合の重大事故等対処設備(代替循環冷却系による格納容器内の除熱)については，「9.6.2(1)a.(c)代替循環冷却系による格納容器内の除熱」と同じである。</p> <p>b. サポート系故障時に用いる設備</p> <p>(a) 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却系)復旧後の格納容器内の除熱</p> <p>全交流動力電源喪失等により原子炉格納容器内の除熱機能が喪失し，炉心の著しい損傷が発生した場合の重大事故等対処設備(常設代替交流電源設備による残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却系)復旧後の格納容器内の除熱)については，「9.6.2(1)b.(d)常設代替交流電源設備による残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却系)復旧後の格納容器内の除熱」と同じである。</p> <p>(b) 残留熱除去系(サブプレッション・プール冷却系)復旧後の格納容器内の除熱</p> <p>全交流動力電源喪失等により原子炉格納容器内の除熱機能が喪失し，炉心の著しい損傷が発生した場合の重大事故等対処設備(常設代替交流電源設備による残留熱除去系(サブプレッション・プール冷却系)の復旧)は，「9.6.2(1)b.(d)常設代替交流電源設備による残留熱</p>	<p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p> <p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p> <p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p> <p>設備の相違。 (先行BWR及び技術的能力との整合)</p>

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>対流冷却ができる設計とする。また、格納容器内自然対流冷却と併せて代替格納容器スプレイを行うことにより放射性物質濃度を低下できる設計とする。可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)は、A、B 格納容器再循環ユニット冷却水入口及び出口配管に取り付けられた検出器に接続し、冷却水温度を監視することにより、A、B 格納容器再循環ユニットを使用した格納容器内自然対流冷却の状態を確認できる設計とする。</p> <p>移動式大容量ポンプ車の燃料は、燃料油貯蔵タンクよりタンクローリを用いて補給できる設計とする。</p> <p>具体的な設備は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A、B 格納容器再循環ユニット ・ 移動式大容量ポンプ車(3号及び4号炉共用) ・ 燃料油貯蔵タンク（重大事故等時のみ3号及び4号炉共用）(10.2 代替電源設備) ・ タンクローリ(3号及び4号炉共用)(10.2 代替電源設備) ・ 可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)(3号及び4号炉共用)(6.4 計装設備(重大事故等対処設備)) <p>原子炉補機冷却海水設備を構成する A、B 海水ストレーナ及び原子炉補機冷却水設備を構成する A 原子炉補機冷却水冷却器は、設計基準事故対処設備の一部を流路として使用することから、流路に係る機能について重大事故等対処設備としての設計を行う。その他、設計基準事故対処設備である原子炉格納施設の原子炉格納容器並びに非常用取水設備の取水口、取水管路及び取水ピットを重大事故等対処設備として使用する。</p> <p>(b) 代替格納容器スプレイ全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能が喪失し、炉心の著しい損傷が発生した場合の重大事故等対処設備(代替格納容器スプレイ)は、「9.5.2(1)b. (b)代替格納容器スプレイ」と同じである。</p> <p>格納容器内自然対流冷却及び代替格納容器スプレイは、炉心損傷防止目的と原子炉格納容器破損防止目的を兼用する設計とする。</p> <p>ディーゼル発電機並びに「9.5.2(2)a. 格納容器スプレイ」に使用する格納容器スプレイポンプ及び燃料取替用水タンク並びに「9.5.2(2)b. 格納容器スプレイ再循環」に使用する格納容器スプレイポンプ、格納容器スプレイ冷却器、格納容器再循環サンプ及び格納容器再循環サンプスクリーンは、設計基準事故対処設備であるとともに、重大事故等時においても使用するため、「1.1.7 重大事故等対処設備に関する基本方針」に示す設計方針を適用する。ただし、多様性、位置的分散等を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、「1.1.7 重大事故等対処設備に関する基本方針」のうち多様性、位置的分散等の設計方針は適用しない。</p> <p>ディーゼル発電機、大容量空冷式発電機、燃料油貯蔵タンク、タンクローリ、重大事故等対処用変圧器受電盤及び重大事故等対処用変圧器盤については、「10.2 代替電源設備」に</p>	<p>除去系（サブプレッション・プール冷却系）復旧後の格納容器内の除熱」と同じである。</p> <p>「9.6.2(2)a. 残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却系）復旧後の格納容器内の除熱」及び「9.6.2(2)b. 残留熱除去系（サブプレッション・プール冷却系）復旧後の格納容器内の除熱」に使用する残留熱除去系ポンプ、残留熱除去系熱交換器、残留熱除去系海水ポンプ及び非常用ディーゼル発電機は、設計基準事故対処設備であるとともに重大事故等時においても使用するため、「1.1.7 重大事故等対処設備に関する基本方針」に示す設計方針を適用するが、多様性、位置的分散等を考慮すべき対象の設計基準事故対処設備はないことから、「1.1.7 重大事故等対処設備に関する基本方針」のうち多様性、位置的分散の設計方針は適用しない。</p> <p>残留熱除去系及び残留熱除去系海水系については、「5.4 残留熱除去系」に示す。</p> <p>代替淡水貯槽及びサブプレッション・プールについては、「9.12 重大事故等の収束に必要な水の供給設備」に示す。</p>	<p>備考</p>

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>て記載する。原子炉格納施設の原子炉格納容器については、「9.1 原子炉格納施設 9.1.2 重大事故等時」にて記載する。可搬型温度計測装置(格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度(SA)用)については、「6.4 計装設備(重大事故等対処設備)」にて記載する。非常用取水設備の取水口、取水管路及び取水ピットについては、「10.8 非常用取水設備 10.8.2 重大事故等時」にて記載する。</p> <p>9.5.2.1 多様性及び独立性、位置的分散</p> <p>基本方針については、「1.1.7.1 多様性、位置的分散、悪影響防止等」に示す。</p> <p>A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却は、原理の異なる冷却、減圧手段を用いることで、格納容器スプレイポンプ、燃料取替用水タンク又は格納容器スプレイ冷却器を使用した格納容器スプレイ及び格納容器スプレイ再循環に対して多様性を持つ設計とする。</p> <p>A, B 格納容器再循環ユニットは、原子炉格納容器内に設置し、A, B 原子炉補機冷却水ポンプ、A 原子炉補機冷却水冷却器及び原子炉補機冷却水サージタンクは、原子炉補助建屋内の格納容器スプレイポンプ及び格納容器スプレイ冷却器と異なる区画に設置し、窒素ボンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用)は、原子炉補助建屋内の格納容器スプレイポンプ及び格納容器スプレイ冷却器と異なる区画に保管し、A, B 海水ポンプは、屋外に設置する。これにより、格納容器スプレイポンプ、格納容器スプレイ冷却器及び燃料取替用水タンク建屋内の燃料取替用水タンクと位置的分散を図る設計とする。</p> <p>クラゲ等の海生生物からの影響に対し、A, B 海水ポンプは、多重性を有する設計とする。</p> <p>常設電動注入ポンプを使用した代替格納容器スプレイは、大容量空冷式発電機からの独立した電源供給ラインから給電することにより、格納容器スプレイポンプを使用した格納容器スプレイ及び格納容器スプレイ再循環に対して多様性を持った電源により駆動できる設計とする。また、燃料取替用水タンク及び復水タンクを水源とすることで、燃料取替用水タンクを水源とする格納容器スプレイポンプを使用した格納容器スプレイに対して異なる水源を持つ設計とする。</p> <p>常設電動注入ポンプは、原子炉補助建屋内の格納容器スプレイポンプ及び格納容器スプレイ冷却器と異なる区画に設置し、復水タンクは、原子炉周辺建屋内に設置する。これにより、格納容器スプレイポンプ、格納容器スプレイ冷却器及び燃料取替用水タンク建屋内の燃料取替用水タンクと位置的分散を図る設計とする。</p> <p>移動式大容量ポンプ車を用いた A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却は、移動式大容量ポンプ車の駆動源を空冷式のディーゼル駆動とすることで、電動の原子炉補機冷却水ポンプ及び海水ポンプに対して、多様性を持つ設計とする。また、原子炉補機冷却水ポンプ及び海水ポンプの電源であるディーゼル発電機に対して、多様性を持つ設計とする。</p> <p>移動式大容量ポンプ車は、3号炉及び4号炉の原子炉周辺建屋内のディーゼル発電機と離れた位置に分散して保管することで、位置的分散を図る設計とする。</p> <p>移動式大容量ポンプ車の接続口は、屋外に2箇所設置する設計とする。</p> <p>クラゲ等の海生生物からの影響に対し、移動式大容量ポンプ車は、複数の取水箇所を選定でき</p>	<p>原子炉格納容器については、「9.1 原子炉格納施設 9.1.2 重大事故等時」に示す。常設代替高圧電源装置及び非常用ディーゼル発電機は、「10.2 代替電源設備」に示す。非常用取水設備については、「10.8 非常用取水設備」に示す。</p> <p>9.6.2.1 多様性及び独立性、位置的分散</p> <p>基本方針については、「1.1.7.1 多様性、位置的分散、悪影響防止等」に示す。</p> <p>常設低圧代替注水系ポンプを使用した代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による格納容器内の冷却は、常設代替高圧電源装置からの独立した電源供給ラインから給電することにより、非常用ディーゼル発電機より給電する残留熱除去系ポンプを使用した原子炉格納容器内の除熱に対し、多様性を有し位置的分散を図る設計とする。</p> <p>常設低圧代替注水系ポンプ及び代替淡水貯槽は、屋外の常設低圧代替注水系格納槽内に設置することで、原子炉建屋原子炉棟内の残留熱除去系ポンプ及び原子炉格納容器内のサブプレッション・プールに対し、多様性を有し位置的分散を図る設計とする。</p> <p>常設低圧代替注水系ポンプは冷却水を不要（自然冷却）とすることで、残留熱除去海水系ポンプにより冷却する残留熱除去系ポンプに対し多様性を有する設計とする。</p> <p>常設低圧代替注水系ポンプを使用する代替格納容器スプレイ配管は、代替淡水貯槽から残留熱除去系（B）配管との合流点までを独立した系統とすることで、残留熱除去系ポンプ（B）を使用する格納容器スプレイ系統に対し多様性を有する設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプを使用した代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器内の冷却は、可搬型代替注水大型ポンプをディーゼルエンジン駆動とすることで、電動駆動の残留熱除去系ポンプに対して多様性を有する設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプを使用した代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器内の冷却は、代替淡水貯槽を水源とすることで、サブプレッション・プールを水源とする残留熱除去系ポンプポンプを使用した原子炉格納容器内の冷却に対して多様性を有し位置的分散を図る設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプは、屋外の保管場所に分散して保管することで、原子炉建屋原子炉棟内の残留熱除去系ポンプ及び常設低圧代替注水系格納槽内の常設低圧代替注水系ポンプと位置的分散を図る設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプの接続口は、原子炉建屋の異なる面の隣接しない位置である原子炉建屋東側（屋外）及び西側（屋外）に1箇所ずつ設置し合計2箇所設置することで、位置的分散を図る設計とする。また、敷地に遡上する津波への対応時のみ必要となる高所接続口については、常設高圧電源装置置場の隣接しない位置である高圧電源装置置場東側及び西側に1箇所ずつ設置し、合計2箇所設置することで、位置的分散を図る設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプを使用する格納容器スプレイ配管は、代替淡水貯槽から残留熱除去系</p>	

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>る設計とする。</p> <p>常設電動注入ポンプを使用する代替格納容器スプレイ配管は、燃料取替用水タンクを水源とする場合は燃料取替用水タンク出口配管の分岐点から格納容器スプレイ配管との合流点まで、復水タンクを水源とする場合は復水タンクから格納容器スプレイ配管との合流点までの系統について、格納容器スプレイポンプを使用する系統に対して独立した設計とする。</p> <p>A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却及び移動式大容量ポンプ車を用いた A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却において使用する原子炉補機冷却水系統は、格納容器スプレイポンプを使用する系統に対して独立した設計とする。</p> <p>これらの多様性及び系統の独立並びに位置的分散によって、格納容器スプレイポンプ、燃料取替用水タンク、格納容器スプレイ冷却器、原子炉補機冷却水ポンプ、海水ポンプ及びディーゼル発電機を使用する設計基準事故対処設備に対して重大事故等対処設備としての独立性を持つ設計とする。</p> <p>電源設備の多様性、位置的分散については、「10.2 代替電源設備」にて記載する。</p> <p>9.5.2.2 悪影響防止</p> <p>基本方針については、「1.1.7.1 多様性、位置的分散、悪影響防止等」に示す。</p> <p>A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に使用する A, B 格納容器再循環ユニット、A, B 原子炉補機冷却水ポンプ、A 原子炉補機冷却水冷却器、原子炉補機冷却水サージタンク、A, B 海水ポンプ及び A, B 海水ストレーナは、設計基準対象施設として使用する場合と同じ系統構成で重大事故等対処設備として使用することから、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に使用する窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用)は、通常時に接続先の系統と分離された状態であること及び重大事故等時は重大事故等対処設備としての系統構成とすることで、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>代替格納容器・器スプレイに使用する常設電動注入ポンプ、燃料取替用水タンク及び復水タンクは、弁操作等によって、設計基準対象施設として使用する系統構成から重大事故等対処設備としての系統構成とすることで、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。また、放射性物質を含む系統と含まない系統を区分するため、通常時に燃料取替用水タンクと復水タンクをディスタンススペースで分離する設計とする。</p> <p>移動式大容量ポンプ車を用いた A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に使用する A, B 格納容器再循環ユニット、A 原子炉補機冷却水冷却器及び A, B 海水ストレーナは、弁操作等によって、設計基準対象施設として使用する系統構成から重大事故等対処設備としての系統構成とすることで、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>移動式大容量ポンプ車を用いた A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に使用する移動式大容量ポンプ車は、通常時に接続先の系統と分離された状態であること及び重大事故等時は重大事故等対処設備としての系統構成とすることで、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。</p>	<p>(A) 配管及び残留熱除去系 (B) 配管との合流点までを独立した系統とすることで、残留熱除去系ポンプを使用する格納容器スプレイ系統に対して多様性を有する設計とする。</p> <p>代替循環冷却系による格納容器内の除熱は、代替循環冷却系ポンプの電源を常設代替高压電源装置からの独立した電源供給ラインから給電することにより非常用ディーゼル発電機から給電する残留熱除去系ポンプを使用した原子炉格納容器内の除熱に対して多様性を有し位置的分散を図る設計とする。</p> <p>代替循環冷却系ポンプは、冷却水を不要（自然冷却）とすることで、残留熱除去系海水ポンプにより冷却する残留熱除去系ポンプに対して多様性を有する設計とする。</p> <p>代替循環冷却系ポンプは、原子炉建屋原子炉棟内の残留熱除去系ポンプと異なる区画である残留熱除去系熱交換器 (A) 室に設置することで、残留熱除去系ポンプと位置的分散を図る設計とする。</p> <p>代替循環冷却系による格納容器内の除熱は、残留熱除去系熱交換器 (A) の出口配管の分岐点から、残留熱除去系 (A) 配管との合流点までを独立した系統とすることで、残留熱除去系ポンプを (A) 使用する格納容器スプレイ冷却系配管に対して多様性を有する設計とする。</p> <p>9.6.2.2 悪影響防止</p> <p>基本方針については、「1.1.7.1 多様性、位置的分散、悪影響防止等」に示す。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による格納容器内の冷却に使用する常設低圧代替注水系ポンプ及び代替淡水貯槽は、通常時は弁により他の系統及び機器と隔離する設計とし、重大事故等時は弁操作等により重大事故等対処設備としての系統構成とすることで、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による原子炉格納容器内の冷却に使用する可搬型代替注水大型ポンプは、通常待機時に接続先の系統と分離された状態で保管されること及び重大事故等時は重大事故等対処設備としての系統構成とすることで、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプは、保管場所において転倒しない設計とすることで、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプは、設置場所において車両転倒防止装置又は輪止めにより固定することで、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>代替循環冷却系による格納容器内の除熱に使用する代替循環冷却系ポンプ及び緊急用海水ポンプは、弁操作等によって設計基準事故対処設備として使用する系統構成から重大事故等対処設備としての系統構成とすることで、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却系）及び残留熱除去系（サプレッション・プール冷却系）に使用する残留熱除去系ポンプ、残留熱除去系熱交換器及び残留熱除去系海水ポンプは、設計基準事故対処設備として使用する場合と同じ系統構成で重大事故等対処設備として使用することから、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。</p>	

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>い設計とする。</p> <p>また、移動式大容量ポンプ車より供給される海水を含む系統と含まない系統を区分するため、通常時に原子炉補機冷却水系統と原子炉補機冷却海水系統をディスタンスピースで分離する設計とする。さらに、移動式大容量ポンプ車は、設置場所において車輪止めによって固定をすることで、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする、格納容器スプレイに使用する格納容器スプレイポンプ、燃料取替用水タンク及び格納容器スプレイ冷却器は、設計基準対象施設として使用する場合と同じ系統構成で重大事故等対処設備として使用することから、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>格納容器スプレイ再循環に使用する格納容器スプレイポンプ、格納容器スプレイ冷却器、格納容器再循環サンプ及び格納容器再循環サンプスクリーンは、設計基準対象施設として使用する場合と同じ系統構成で重大事故等対処設備として使用することから、他の設備に悪影響を及ぼさない設計とする。</p> <p>9.5.2.3 容量等</p> <p>基本方針については、「1.1.7.2 容量等」に示す。</p> <p>格納容器内自然対流冷却として使用する A, B 格納容器再循環ユニットは、重大事故等時に崩壊熱による原子炉格納容器内の温度及び圧力の上昇に対して、格納容器・器再循環ユニットに原子炉補機冷却水又は海水を通水させることで、格納容器再循環ユニットでの圧力損失を考慮しても原子炉格納容器内の温度及び圧力を低下させることができる伝熱容量を有する設計とする。</p> <p>格納容器内自然対流冷却として使用する A, B 原子炉補機冷却水ポンプ、A 原子炉補機冷却水冷却器、原子炉補機冷却水サージタンク及び A, B 海水ポンプは、設計基準事故時の原子炉補機冷却水系統及び原子炉補機冷却海水系統の機能と兼用しており、設計基準事故時に使用する場合の原子炉補機冷却水流量及び原子炉補機冷却海水流量が、炉心崩壊熱により加圧及び加熱された原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために必要な原子炉補機冷却水流量及び原子炉補機冷却海水流量に対して十分であるため、設計基準事故対処設備と同仕様のポンプ流量、伝熱容量、タンク容量で設計する。</p> <p>炉心の著しい損傷防止のために使用する窒素ボンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用)は、格納容器内自然対流冷却を実施する際に、原子炉補機冷却水の沸騰を防止するため原子炉補機冷却水サージタンク気相部を必要な圧力まで加圧できるボンベ容量を有するものを1セット6個使用する。保有数は1セット6個、保守点検は目視点検であり、保守点検中でも使用可能であるため、保守点検用は考慮せずに、故障時のバックアップ用として1個の合計7個を保管する。</p> <p>代替格納容器スプレイとして使用する常設電動注入ポンプは、炉心の著しい損傷を防止するために必要なスプレイ流量に対して十分なポンプ流量を有する設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷防止のために代替格納容器スプレイとして使用する燃料取替用水タンク及び復水タンクは、原子炉格納容器への注水量に対し、復水タンクを介して淡水又は海水を補給するまでの間、水源を確保できる十分なタンク容量を有する設計とする。</p>	<p>9.6.2.3 容量等</p> <p>基本方針については、「1.1.7.2 容量等」に示す。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による格納容器内の冷却に使用する常設低圧代替注水系ポンプは、炉心の著しい損傷を防止するために必要なスプレイ流量に対して、ポンプ2個の運転により十分なポンプ流量を確保する設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器内の冷却に使用する可搬型代替注水大型ポンプは、重大事故等時において注水に必要な容量を有するものを1個と水の補給に必要な容量を有するものを1個と同時に使用するために1セット2個使用する。保有数は2セットで4個と、故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップ用として2個の合計6個を保管する。</p> <p>予備については、可搬型代替注水大型ポンプ（放水用）と兼用する。</p> <p>常設低圧代替注水系ポンプ及び可搬型代替注水大型ポンプは、他系統への注水と同時に使用する場合でも、各々の必要流量が確保可能な設計とする。</p> <p>代替循環冷却系による格納容器内の除熱に使用する代替循環冷却系ポンプは、炉心の著しい損傷を防止するために必要なスプレイ流量を有する設計とする。</p> <p>残留熱除去系熱交換器に海水を供給する緊急用海水ポンプは、サプレッション・プール水を冷却し格納容器にスプレイするために必要な冷却水量に対して、ポンプ1個の運転により十分なポンプ流量を有する設計とする。緊急用海水ポンプは、重大事故等時において海水の供給に必要な容量を有するものを1個と故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップ用として1個の合計2個を設置する設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）及び代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器内の冷却として使用する代替淡水貯槽は、原子炉格納容器へのスプレイ量に対し、可搬型代替注水大型ポンプにより淡水又は海水を補給するまでの間、水源を確保できる十分な容量を有する設計とする。</p>	

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>炉心の著しい損傷防止のために使用する移動式大容量ポンプ車は、格納容器内自然対流冷却として3号炉及び4号炉で同時使用した場合に必要なポンプ流量を有するものを1セット1台使用する。保有数は3号炉及び4号炉で2セット2台、故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップ用として1台の合計3台(3号及び4号炉共用)を保管する。</p> <p>炉心の著しい損傷を防止するために格納容器スプレイ及び格納容器スプレイ再循環として使用する格納容器スプレイポンプは、設計基準事故時の格納容器スプレイ機能と兼用しており、設計基準事故時に使用する場合のスプレイ流量が、炉心崩壊熱による炉心の著しい損傷を防止するために必要なスプレイ流量に対して十分であるため、設計基準事故対処設備と同仕様のポンプ流量で設計する。</p> <p>格納容器スプレイとして使用する燃料取替用水タンクは、設計基準事故時の非常用炉心冷却設備の水源と兼用しており、設計基準事故時に使用する場合のタンク容量が、炉心崩壊熱により上昇した原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために必要なタンク容量に対して十分であるため、設計基準事故対処設備と同仕様に設計する。</p> <p>格納容器スプレイ再循環として使用する格納容器スプレイ冷却器は、設計基準事故時の格納容器スプレイ機能と兼用しており、設計基準事故時に使用する場合の伝熱容量が、重大事故等時の炉心崩壊熱により上昇した原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させ、炉心の著しい損傷を防止するために必要な伝熱容量に対して十分であるため設計基準事故対処設備と同仕様に設計する。</p> <p>格納容器スプレイ再循環として使用する格納容器再循環サンプ及び格納容器再循環サンプスクリーンは、設計基準事故時の再循環として原子炉格納容器内に溜まった水を各ポンプへ供給する槽及びろ過装置としての機能と兼用しており、設計基準事故時に使用する場合の容量が、再循環時の水源として必要な容量に対して十分であるため、設計基準事故対処設備と同仕様に設計する。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合における原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために格納容器内自然対流冷却として使用するA、B格納容器再循環ユニットは、格納容器再循環ユニットに原子炉補機冷却水又は海水を通水させることで、格納容器再循環ユニットでの圧力損失を考慮しても原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させることができる伝熱容量を有する設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合における原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために格納容器内自然対流冷却として使用するA、B原子炉補機冷却水ポンプ、A原子炉補機冷却水冷却器、原子炉補機冷却水サージタンク及びA、B海水ポンプは、設計基準事故時の原子炉補機冷却水系統及び原子炉補機冷却海水系統の機能と兼用しており、設計基準事故時に使用する場合の原子炉補機冷却水流量及び原子炉補機冷却海水流量が、炉心の著しい損傷が発生した場合の原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために必要な原子炉補機冷却水流量及び原子炉補機冷却海水流量に対して十分であるため、設計基準事故対処設備と同仕様のポンプ流量、伝熱容量、タンク容量で設計する。</p>	<p>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却系）による格納容器内の除熱及び残留熱除去系（サブプレッション・プール冷却系）によるサブプレッション・プール水の除熱として使用する残留熱除去系ポンプ、残留熱除去系海水ポンプ及び残留熱除去系熱交換器は、設計基準事故時の格納容器スプレイ冷却系及びサブプレッション・プール除熱機能と兼用しており、設計基準事故時に使用する場合のポンプ流量が炉心の著しい損傷を防止するために必要なポンプ流量に対して十分であるため、設計基準事故対処設備と同仕様に設計する。</p> <p>代替循環冷却系、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却系）による格納容器内の除熱及び残留熱除去系（サブプレッション・プール冷却系）によるサブプレッション・プール水の除熱の水源として使用するサブプレッション・プールは、設計基準事故時の非常用炉心冷却設備の水源と兼用しており設計基準事故時に使用する場合の水量が炉心崩壊熱により上昇した原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために必要な水量に対して十分であるため、設計基準事故対処設備と同仕様に設計する。</p> <p>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却系）による格納容器内の除熱及び残留熱除去系（サブプレッション・プール冷却系）によるサブプレッション・プール水の除熱として使用する残留熱除去系熱交換器及び残留熱除去系海水ポンプは、設計基準事故時の残留熱除去系海水系の機能と兼用しており、設計基準事故時に使用する場合のポンプ流量及び伝熱容量が原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために必要な残留熱除去系海水系のポンプ流量及び伝熱容量に対して十分であるため、設計基準事故対処設備と同仕様に設計する。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合における原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるために使用する代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による格納容器内の冷却に使用する常設低圧代替注水系ポンプは、炉心の著しい損傷が発生した場合の原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるために必要なスプレイ流量に対して、ポンプ2個の運転により十分なポンプ流量を確保する設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合における原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるために代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器内の冷却に使用する可搬型代替注水大型ポンプは、炉心の著しい損傷が発生した場合の原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させるために必要なスプレイ流量を確保する設計とする。</p>	

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>炉心の著しい損傷が発生した場合における原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために使用する窒素ポンペ(原子炉補機冷却水サージタンク用)は、格納容器内自然対流冷却を実施する際に、原子炉補機冷却水の沸騰を防止するため原子炉補機冷却水サージタンク気相部を必要な圧力まで加圧できるポンペ容量を有するものを1セット6個使用する。</p> <p>保有数は1セット6個、保守点検は目視点検であり、保守点検中でも使用可能であるため、保守点検用は考慮せずに、故障時のバックアップ用として1個の合計7個を保管する。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合における原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために代替格納容器スプレイとして使用する常設電動注入ポンプは、炉心の著しい損傷が発生した場合の原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために必要なスプレイ流量に対して十分なポンプ流量を有する設計とする。さらに、格納容器内自然対流冷却と併せて代替格納容器スプレイを行うことにより原子炉格納容器内の放射性物質濃度を低下できる設計とする、炉心の著しい損傷が発生した場合における原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために代替格納容器スプレイとして使用する燃料取替用水タンク及び復水タンクは、原子炉格納容器への注水量に対し、復水タンクを介して淡水又は海水を補給するまでの間、水源を確保できる十分なタンク容量を有する設計とする。</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合における原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させるために使用する移動式大容量ポンプ車は、格納容器内自然対流冷却として3号炉及び4号炉で同時使用した場合に必要なポンプ流量を有するものを1セット1台使用する。保有数は3号炉及び4号炉で2セット2台、故障時及び保守点検による待機除外時のバックアップ用として1台の合計3台(3号及び4号炉共用)を保管する。</p> <p>9.5.2.4 環境条件等</p> <p>基本方針については、「1.1.7.3 環境条件等」に示す。</p> <p>A, B 格納容器再循環ユニット、格納容器再循環サンプ及び格納容器再循環サンプスクリーンは、原子炉格納容器内に設置し、重大事故等時における環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>A, B 原子炉補機冷却水ポンプ、A 原子炉補機冷却水冷却器、原子炉補機冷却水サージタンク、常設電動注入ポンプ、格納容器スプレイポンプ及び格納容器スプレイ冷却器は、原子炉補助建屋内に設置し、重大事故等時における環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>A, B 原子炉補機冷却水ポンプ及び格納容器スプレイポンプの操作は中央制御室で可能な設計とする。</p> <p>常設電動注入ポンプの操作は中央制御室及び設置場所と異なる区画で可能な設計とする。</p> <p>窒素ポンペ(原子炉補機冷却水サージタンク用)は、原子炉補助建屋内に保管及び設置し、重大事故等時における環境条件を考慮した設計とする、窒素ポンペ(原子炉補機冷却水サージタンク用)の操作は設置場所で可能な設計とする、A, B 海水ポンプ及びA, B 海水ストレーナは、屋外に設置し、重大事故等時における環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>A, B 海水ポンプの操作は中央制御室で可能な設計とする。</p>	<p>9.6.2.4 環境条件等</p> <p>基本方針については、「1.1.7.3 環境条件等」に示す。</p> <p>常設低圧代替注水系ポンプ及び代替淡水貯槽は、常設低圧代替注水系格納槽内に設置し、重大事故等時における常設低圧代替注水系格納槽内の環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>常設低圧代替注水系ポンプは、中央制御室から操作が可能な設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプは、屋外に保管及び設置し、重大事故等時における屋外の環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプは、現場において操作可能な設計とする。</p> <p>常設低圧代替注水系ポンプ、可搬型代替注水大型ポンプ及び代替淡水貯槽は、淡水だけでなく海水も使用することから、海水の影響を考慮した設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプは、海から直接取水する際の異物の流入防止を考慮した設計とする。</p> <p>代替循環冷却系ポンプ、残留熱除去系ポンプ及び残留熱除去系熱交換器は、原子炉建屋原子炉棟内に設置し、重大事故等時における原子炉建屋原子炉棟内の環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>代替循環冷却系ポンプ及び残留熱除去系ポンプは、中央制御室から操作が可能な設計とする。</p> <p>サプレッション・プールは、原子炉格納容器内に設置し重大事故等時における原子炉格納容器内</p>	

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>A 原子炉補機冷却水冷却器，A，B 海水ポンプ及び A，B 海水ストレーナは，常時海水を通水するため耐腐食性材料を使用する設計とする。</p> <p>燃料取替用水タンクは，燃料取替用水タンク建屋内に設置し，重大事故等時における環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>復水タンクは，原子炉周辺建屋内に設置し，重大事故等時における環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>A，B 格納容器再循環ユニット，常設電動注入ポンプ，燃料取替用水タンク及び復水タンクは，淡水だけでなく海水も使用することから，海水影響を考慮した設計とする。</p> <p>移動式大容量ポンプ車は，屋外に保管及び設置し，重大事故等時における環境条件を考慮した設計とする。操作は設置場所で可能な設計とする。また，使用時に海水を通水するため，海水影響を考慮した設計とし，海から直接取水する際の異物の流入防止を考慮した設計とする。</p> <p>9.5.2.5 操作性の確保</p> <p>基本方針については，「1.1.7.4 操作性及び試験・検査性について」に示す。</p> <p>A，B 格納容器再循環ユニット，A，B 原子炉補機冷却水ポンプ，A 原子炉補機冷却水冷却器，原子炉補機冷却水サージタンク，窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用)，A，B 海水ポンプ及び A，B 海水ストレーナを使用した A，B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を行う系統は，重大事故等が発生した場合でも，通常時の系統から弁操作等にて速やかに切替える設計とする。A，B 原子炉補機冷却水ポンプ及び A，B 海水ポンプは，中央制御室の制御盤の操作スイッチでの操作が可能な設計とする。</p> <p>窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用)の出口配管と窒素ガス供給配管の接続は，簡便な接続規格による接続とし，確実に接続できる設計とする。また，3号炉及び4号炉で同一規格の設計とする。窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用)の取付継手は，3号炉及び4号炉の窒素ポンベ(加圧器逃がし弁用，事故時試料採取設備弁用及びアニユラス空気浄化ファン弁用)と同一形状とし，一般的に使用される工具を用いて確実に接続できるとともに，必要により窒素ポンベの交換が可能な設計とする。</p> <p>常設電動注入ポンプ，燃料取替用水タンク及び復水タンクを使用した代替格納容器スプレイを行う系統は，重大事故等が発生した場合でも，通常時の系統から弁操作等にて速やかに切替える設計とする。切替えに伴うディスタンスピースの取替作業については，一般的に使用される工具を用いて確実に取替えが可能な設計とする。常設電動注入ポンプは，中央制御室の制御盤の操作スイッチでの操作及び現場の操作スイッチによる操作が可能な設計とする。</p> <p>A，B 格納容器再循環ユニット，移動式大容量ポンプ車，A，B 海水ストレーナ及び A 原子炉補機冷却水冷却器を使用した，移動式大容量ポンプ車を用いた A，B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を行う系統は，重大事故等が発生した場合でも，通常時の系統から弁操作等にて速やかに切替える設計とする。切替えに伴うディスタンスピースの取替作業については，一般的に使用される工具を用いて確実に取替えが可能な設計とする。</p>	<p>の環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>緊急用海水ポンプは，緊急用海水ポンプピット内に設置し重大事故等時における緊急用海水ポンプピット内の環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>残留熱除去系海水ポンプは，屋外に設置し重大事故等時における屋外の環境条件を考慮した設計とする。</p> <p>緊急用海水ポンプ及び残留熱除去系海水ポンプは，中央制御室からスイッチによる操作が可能な設計とする。</p> <p>緊急用海水ポンプ，残留熱除去系海水ポンプ及び残留熱除去系熱交換器は，使用時に常時海水を通水するため耐腐食性材料を使用する。</p> <p>緊急用海水ポンプ及び残留熱除去系海水ポンプは，系統への異物の流入防止を考慮した設計とする。</p> <p>9.6.2.5 操作性の確保</p> <p>基本方針については，「1.1.7.4 操作性及び試験・検査性について」に示す。</p> <p>常設低圧代替注水系ポンプ及び代替淡水貯槽を使用した代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による格納容器内の冷却を行う系統は，重大事故等が発生した場合でも通常時の系統から弁操作等にて速やかに切替える設計とする。</p> <p>常設低圧代替注水系ポンプは，中央制御室からスイッチにより操作が可能な設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプを使用した代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器内の冷却を行う系統は，重大事故等が発生した場合でも通常待機時の系統から弁操作等にて速やかに切替える設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプは，車両として移動可能な設計とするとともに，車両転倒防止装置又は輪止めにより設置場所にて固定できる設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプと原子炉建屋東側接続口，西側接続口，高所東側接続口又は高所西側接続口の接続は，一般的に使用される工具を用いて接続可能なフランジにより接続する設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプ及びホースは，接続方式及び口径の統一により確実に接続できる設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプは，ポンプ付属のスイッチにより現場での操作が可能な設計とする。</p> <p>代替循環冷却系ポンプ，サブプレッション・プール，残留熱除去系熱交換器及び緊急用海水ポンプを使用した代替循環冷却系による格納容器内の除熱を行う系統は，重大事故等が発生した場合でも通常時の系統から弁操作等にて速やかに切替える設計とする。</p> <p>代替循環冷却系ポンプ及び緊急用海水ポンプは，中央制御室からスイッチにより操作が可能な設計とする。</p> <p>残留熱除去系ポンプ，残留熱除去系熱交換器及び残留熱除去系海水ポンプを使用した残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却系）は，重大事故等が発生した場合でも，設計基準事故対処設備として</p>	

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>移動式大容量ポンプ車は、車両として移動可能な設計とするとともに、車輪止めを積載し、設置場所にて固定できる設計とする。</p> <p>移動式大容量ポンプ車と A, B 海水ストレーナブロー配管及び海水母管戻り配管側フランジとの接続口についてはフランジ接続とし、嵌合構造により可搬型ホースを確実に接続できる設計とする。接続口は、3号炉及び4号炉とも同一形状の設計とする。A, B 海水ストレーナブロー配管及び海水母管戻り配管側フランジは、一般的に使用される工具を用いて確実に取替えが可能な設計とする。移動式大容量ポンプ車は、付属の操作スイッチにより現場での操作が可能な設計とする。</p> <p>格納容器スプレイポンプ、燃料取替用水タンク及び格納容器スプレイ冷却器を使用した格納容器スプレイを行う系統は、重大事故等が発生した場合でも、設計基準対象施設として使用する場合と同じ系統構成で重大事故等対処設備として使用する設計とする。格納容器スプレイポンプは、中央制御室の制御盤の操作スイッチでの操作が可能な設計とする。</p> <p>格納容器スプレイポンプ、格納容器スプレイ冷却器、格納容器再循環サンプ及び格納容器再循環サンプスクリーンを使用した格納容器スプレイ再循環を行う系統は、重大事故等が発生した場合でも、設計基準対象施設として使用する場合と同じ系統構成で重大事故等対処設備として使用する設計とする。</p> <p>9.5.3 主要設備及び仕様</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備の主要設備及び仕様を第9.5.1表及び第9.5.2表に示す。</p> <p>9.5.4 試験検査</p> <p>基本方針については、「1.1.7.4 操作性及び試験・検査性について」に示す。</p> <p>A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に使用する A, B 格納容器再循環ユニット, A, B 原子炉補機冷却水ポンプ, A 原子炉補機冷却水冷却器, 原子炉補機冷却水サージタンク, A, B 海水ポンプ及び A, B 海水ストレーナは、他系統と独立した試験系統又は通常時の系統構成により機能・性能及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。</p> <p>A, B 格納容器再循環ユニットは、内部の確認が可能なように点検口を設ける設計とする。</p> <p>A, B 原子炉補機冷却水ポンプ及び A, B 海水ポンプは、分解が可能な設計とする。</p> <p>A 原子炉補機冷却水冷却器及び原子炉補機冷却水サージタンクは、内部の確認が可能なように、マンホールを設ける設計とする。</p> <p>A 原子炉補機冷却水冷却器は、伝熱管の非破壊検査が可能なように、試験装置を設置できる設計とする。</p> <p>A, B 海水ストレーナは、差圧確認が可能な設計とする。また、内部の確認が可能なように、ボンネットを取り外すことができる設計とする。</p> <p>A, B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に使用する窒素ポンベ(原子炉補</p>	<p>使用する場合と同じ系統構成で使用できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系ポンプ、残留熱除去系熱交換器及び残留熱除去系海水ポンプを使用した残留熱除去系（サブプレッション・プール冷却系）は、重大事故等が発生した場合でも、設計基準事故対処設備として使用する場合と同じ系統構成で使用できる設計とする。</p> <p>残留熱除去系ポンプ及び残留熱除去系海水ポンプは、中央制御室からスイッチにより操作が可能な設計とする。</p> <p>9.6.3 主要設備及び仕様</p> <p>原子炉格納容器内の冷却等のための設備の主要設備及び仕様を第9.6-1表及び第9.6-2表に示す。</p> <p>9.6.4 試験検査</p> <p>基本方針については、「1.1.7.4 操作性及び試験・検査性について」に示す。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による格納容器内の冷却に使用する低圧代替注水系ポンプは、他系統と独立した試験系統により機能・性能及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。</p> <p>常設低圧代替注水ポンプは、分解が可能な設計とする。</p> <p>代替淡水貯槽は、内部の確認が可能なハッチ等を設ける設計とする。</p> <p>代替淡水貯槽は、有効水量が確認できる設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器内の冷却に使用する可搬型代替注水大型ポンプは、他系統と独立した試験系統により機能・性能及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。</p> <p>可搬型代替注水大型ポンプは、車両として運転確認及び外観確認が可能な設計とする。</p> <p>残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却系）及び残留熱除去系（サブプレッション・プール冷却系）に使用する残留熱除去系ポンプ及び残留熱除去系海水ポンプは、系統の機能・性能及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。</p> <p>残留熱除去系ポンプ及び残留熱除去系海水ポンプは、分解が可能な設計とする。</p>	

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>機冷却水サージタンク用)は、原子炉補機冷却水サージタンク加圧ラインへ窒素供給することにより機能・性能及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。</p> <p>窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用)は、規定圧力及び外観の確認が可能な設計とする。</p> <p>代替格納容器スプレイに使用する常設電動注入ポンプ、燃料取替用水タンク及び復水タンクは、他系統と独立した試験系統により機能・性能及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。</p> <p>また、試験系統に含まれない系統については、悪影響防止のため、放射性物質を含む系統と含まない系統とを個別に通水及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。</p> <p>常設電動注入ポンプは、分解が可能な設計とする。</p> <p>燃料取替用水タンク及び復水タンクは、内部の確認が可能なように、マンホールを設ける設計とする。</p> <p>燃料取替用水タンクは、ほう素濃度及び有効水量が確認できる設計とする。</p> <p>移動式大容量ポンプ車を用いた A、B 格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却に使用する A、B 格納容器再循環ユニット、移動式大容量ポンプ車、A、B 海水ストレーナ及び A 原子炉補機冷却水冷却器は、他系統と独立した試験系統又は通常時の系統構成により機能・性能及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。また、試験系統に含まれない系統については、悪影響防止のため、海水を含む原子炉補機冷却海水系統と海水を含まない原子炉補機冷却水系統とを個別に通水及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。</p> <p>移動式大容量ポンプ車は、ポンプの分解又は取替が可能な設計とする。また、車両として運転状態の確認及び外観の確認が可能な設計とする。</p> <p>格納容器スプレイに使用する格納容器スプレイポンプ、燃料取替用水タンク及び格納容器スプレイ冷却器は、他系統と独立した試験系統により機能・性能及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。</p> <p>格納容器スプレイポンプは、分解が可能な設計とする。</p> <p>格納容器スプレイ冷却器は、内部の確認が可能なように、フランジを設ける設計とする。また、伝熱管の非破壊検査が可能なように、試験装置を設置できる設計とする。</p> <p>格納容器スプレイ再循環に使用する格納容器スプレイポンプ、格納容器スプレイ冷却器、格納容器再循環サンプ及び格納容器再循環サンプスクリーンは、格納容器再循環サンプ及び格納容器再循環サンプスクリーンを含まない循環ラインを用いて他系統と独立した試験系統により機能・性能及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする、</p> <p>格納容器再循環サンプ及び格納容器再循環サンプスクリーンは、外観の確認が可能な設計とする。</p>	<p>代替循環冷却系ポンプは、他系統と独立した試験系統により機能・性能及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。</p> <p>代替循環冷却系ポンプは、分解が可能な設計とする。</p> <p>緊急用海水ポンプは、系統の機能・性能及び漏えいの有無の確認が可能な設計とする。</p> <p>緊急用海水ポンプは、分解が可能な設計とする。</p>	<p>備考</p>

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考																																																										
<p>第9.5.1表 原子炉格納容器内の冷却等のための設備(常設)の設備仕様</p> <p>(1) 格納容器再循環ユニット 兼用する設備は以下のとおり、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 ・格納容器換気空調設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 <table border="0"> <tr><td>型 式</td><td>原子炉補機冷却水冷却コイル内蔵型</td></tr> <tr><td>基 数</td><td>2(格納容器内自然対流冷却時はA, B号機のみ使用)</td></tr> <tr><td>伝 熱 容 量</td><td>約 13.0MW(1基当たり)</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td></td></tr> <tr><td>管 側</td><td>約 175℃</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td></td></tr> <tr><td>管 側</td><td>1.4MPa[gage]</td></tr> </table> <p>(2) 原子炉補機冷却水ポンプ 兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉補機冷却水設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 <table border="0"> <tr><td>型 式</td><td>うず巻式</td></tr> <tr><td>台 数</td><td>2(格納容器内自然対流冷却時はA, B号機のみ使用)</td></tr> <tr><td>容 量</td><td>約 1,700m³/h (1台当たり)</td></tr> <tr><td>揚 程</td><td>約 55m</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>1.4MPa[gage]</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>95℃</td></tr> <tr><td></td><td>約 175℃(重大事故等時における使用時の値)</td></tr> <tr><td>本 体 材 料</td><td>炭素鋼</td></tr> </table> <p>(3) 原子炉補機冷却水冷却器 兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・原子炉補機冷却水設備 ・最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 	型 式	原子炉補機冷却水冷却コイル内蔵型	基 数	2(格納容器内自然対流冷却時はA, B号機のみ使用)	伝 熱 容 量	約 13.0MW(1基当たり)	最高使用温度		管 側	約 175℃	最高使用圧力		管 側	1.4MPa[gage]	型 式	うず巻式	台 数	2(格納容器内自然対流冷却時はA, B号機のみ使用)	容 量	約 1,700m ³ /h (1台当たり)	揚 程	約 55m	最高使用圧力	1.4MPa[gage]	最高使用温度	95℃		約 175℃(重大事故等時における使用時の値)	本 体 材 料	炭素鋼	<p>第9.6-1表 原子炉格納容器内の冷却等のための設備(常設)の設備仕様</p> <p>(1) 常設低圧代替注水系ポンプ 兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備 ・使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備 <table border="0"> <tr><td>型 式</td><td>うず巻形</td></tr> <tr><td>個 数</td><td>2</td></tr> <tr><td>容 量</td><td>約 200m³/h (1個当たり)</td></tr> <tr><td>全 揚 程</td><td>約 200m</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>3.14MPa[gage]</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>66℃</td></tr> <tr><td>本 体 材 料</td><td>炭素鋼</td></tr> </table> <p>(2) 代替循環冷却系ポンプ 兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 ・原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備 <table border="0"> <tr><td>型 式</td><td>うず巻形</td></tr> <tr><td>個 数</td><td>1</td></tr> <tr><td>容 量</td><td>約 250m³/h (1個当たり)</td></tr> <tr><td>全 揚 程</td><td>約 200m</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>3.14MPa[gage]</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>66℃</td></tr> <tr><td>本 体 材 料</td><td>炭素鋼</td></tr> </table> <p>(3) 残留熱除去系ポンプ 兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 	型 式	うず巻形	個 数	2	容 量	約 200m ³ /h (1個当たり)	全 揚 程	約 200m	最高使用圧力	3.14MPa[gage]	最高使用温度	66℃	本 体 材 料	炭素鋼	型 式	うず巻形	個 数	1	容 量	約 250m ³ /h (1個当たり)	全 揚 程	約 200m	最高使用圧力	3.14MPa[gage]	最高使用温度	66℃	本 体 材 料	炭素鋼	
型 式	原子炉補機冷却水冷却コイル内蔵型																																																											
基 数	2(格納容器内自然対流冷却時はA, B号機のみ使用)																																																											
伝 熱 容 量	約 13.0MW(1基当たり)																																																											
最高使用温度																																																												
管 側	約 175℃																																																											
最高使用圧力																																																												
管 側	1.4MPa[gage]																																																											
型 式	うず巻式																																																											
台 数	2(格納容器内自然対流冷却時はA, B号機のみ使用)																																																											
容 量	約 1,700m ³ /h (1台当たり)																																																											
揚 程	約 55m																																																											
最高使用圧力	1.4MPa[gage]																																																											
最高使用温度	95℃																																																											
	約 175℃(重大事故等時における使用時の値)																																																											
本 体 材 料	炭素鋼																																																											
型 式	うず巻形																																																											
個 数	2																																																											
容 量	約 200m ³ /h (1個当たり)																																																											
全 揚 程	約 200m																																																											
最高使用圧力	3.14MPa[gage]																																																											
最高使用温度	66℃																																																											
本 体 材 料	炭素鋼																																																											
型 式	うず巻形																																																											
個 数	1																																																											
容 量	約 250m ³ /h (1個当たり)																																																											
全 揚 程	約 200m																																																											
最高使用圧力	3.14MPa[gage]																																																											
最高使用温度	66℃																																																											
本 体 材 料	炭素鋼																																																											

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考																																																																																		
<ul style="list-style-type: none"> 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備 重大事故等の収束に必要となる水の供給設備 <table border="0"> <tr><td>型式</td><td>横置直管式</td></tr> <tr><td>基数</td><td>1(格納容器内自然対流冷却時はA号機のみ使用)</td></tr> <tr><td>伝熱量</td><td>約19.2MW</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td></td></tr> <tr><td>管側</td><td>50℃</td></tr> <tr><td>胴側</td><td>95℃</td></tr> <tr><td></td><td>175℃(重大事故等時における使用時の値)</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td></td></tr> <tr><td>管側</td><td>0.7MPa[gage]</td></tr> <tr><td></td><td>約1.25MPa[gage](重大事故等時における使用時の値)</td></tr> <tr><td>胴側</td><td>1.4MPa[gage]</td></tr> <tr><td>材料</td><td></td></tr> <tr><td>管側</td><td>アルミブラス</td></tr> <tr><td>銅側</td><td>炭素鋼</td></tr> </table> <p>(4) 原子炉補機冷却水サージタンク 兼用する設備は以下のとおり。 ・原子炉補機冷却水設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備</p> <table border="0"> <tr><td>型式</td><td>横置円筒型</td></tr> <tr><td>基数</td><td>1</td></tr> <tr><td>容量</td><td>約8m³</td></tr> <tr><td>通常水容量</td><td>約41m³</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>0.34MPa[gage]</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>95℃</td></tr> <tr><td>本体材料</td><td>炭素鋼</td></tr> </table> <p>(5) 海水ポンプ 兼用する設備は以下のとおり、 ・原子炉補機冷却海水設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備</p>	型式	横置直管式	基数	1(格納容器内自然対流冷却時はA号機のみ使用)	伝熱量	約19.2MW	最高使用温度		管側	50℃	胴側	95℃		175℃(重大事故等時における使用時の値)	最高使用圧力		管側	0.7MPa[gage]		約1.25MPa[gage](重大事故等時における使用時の値)	胴側	1.4MPa[gage]	材料		管側	アルミブラス	銅側	炭素鋼	型式	横置円筒型	基数	1	容量	約8m ³	通常水容量	約41m ³	最高使用圧力	0.34MPa[gage]	最高使用温度	95℃	本体材料	炭素鋼	<ul style="list-style-type: none"> 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 <table border="0"> <tr><td>型式</td><td>たて形電動うず巻式</td></tr> <tr><td>個数</td><td>3</td></tr> <tr><td>容量</td><td>約1,690m³/也(I台当たり)</td></tr> <tr><td>全揚程</td><td>約85m</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>3.50MPa[gage]</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>182℃</td></tr> <tr><td>本体材料</td><td>鋳鋼</td></tr> </table> <p>(4) 緊急用海水ポンプ 兼用する設備は以下のとおり。 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 ・使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備</p> <table border="0"> <tr><td>型式</td><td>ターボ形</td></tr> <tr><td>個数</td><td>1(予備1)</td></tr> <tr><td>容量</td><td>約844m³/h(1基当たり)</td></tr> <tr><td>揚程</td><td>約130m</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>2.45MPa[gage]</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>38℃</td></tr> <tr><td>本体材料</td><td>ステンレス鋼</td></tr> </table> <p>(5) 残留熱除去系海水ポンプ 兼用する設備は以下のとおり。 ・残留熱除去系 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備</p> <table border="0"> <tr><td>型式</td><td>たて形うず巻式</td></tr> <tr><td>個数</td><td>4</td></tr> <tr><td>容量</td><td>約886m³/h(1台当たり)</td></tr> <tr><td>揚程</td><td>約184m</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>3.45MPa[gage]</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>38℃</td></tr> </table>	型式	たて形電動うず巻式	個数	3	容量	約1,690m ³ /也(I台当たり)	全揚程	約85m	最高使用圧力	3.50MPa[gage]	最高使用温度	182℃	本体材料	鋳鋼	型式	ターボ形	個数	1(予備1)	容量	約844m ³ /h(1基当たり)	揚程	約130m	最高使用圧力	2.45MPa[gage]	最高使用温度	38℃	本体材料	ステンレス鋼	型式	たて形うず巻式	個数	4	容量	約886m ³ /h(1台当たり)	揚程	約184m	最高使用圧力	3.45MPa[gage]	最高使用温度	38℃	
型式	横置直管式																																																																																			
基数	1(格納容器内自然対流冷却時はA号機のみ使用)																																																																																			
伝熱量	約19.2MW																																																																																			
最高使用温度																																																																																				
管側	50℃																																																																																			
胴側	95℃																																																																																			
	175℃(重大事故等時における使用時の値)																																																																																			
最高使用圧力																																																																																				
管側	0.7MPa[gage]																																																																																			
	約1.25MPa[gage](重大事故等時における使用時の値)																																																																																			
胴側	1.4MPa[gage]																																																																																			
材料																																																																																				
管側	アルミブラス																																																																																			
銅側	炭素鋼																																																																																			
型式	横置円筒型																																																																																			
基数	1																																																																																			
容量	約8m ³																																																																																			
通常水容量	約41m ³																																																																																			
最高使用圧力	0.34MPa[gage]																																																																																			
最高使用温度	95℃																																																																																			
本体材料	炭素鋼																																																																																			
型式	たて形電動うず巻式																																																																																			
個数	3																																																																																			
容量	約1,690m ³ /也(I台当たり)																																																																																			
全揚程	約85m																																																																																			
最高使用圧力	3.50MPa[gage]																																																																																			
最高使用温度	182℃																																																																																			
本体材料	鋳鋼																																																																																			
型式	ターボ形																																																																																			
個数	1(予備1)																																																																																			
容量	約844m ³ /h(1基当たり)																																																																																			
揚程	約130m																																																																																			
最高使用圧力	2.45MPa[gage]																																																																																			
最高使用温度	38℃																																																																																			
本体材料	ステンレス鋼																																																																																			
型式	たて形うず巻式																																																																																			
個数	4																																																																																			
容量	約886m ³ /h(1台当たり)																																																																																			
揚程	約184m																																																																																			
最高使用圧力	3.45MPa[gage]																																																																																			
最高使用温度	38℃																																																																																			

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備</p> <p>型式 斜流式</p> <p>台数 2(格納容器内自然対流冷却時はA, B号機のみ使用)</p> <p>容量 約2,600m³/h (1台当たり)</p> <p>揚程 約49m</p> <p>本体材料 ステンレス鋼</p> <p>(6) 海水ストレーナ</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・原子炉補機冷却海水設備 ・最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 ・水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備 ・重大事故等の収束に必要な水の供給設備 <p>型式 たて置き円筒型</p> <p>台数 2(格納容器内自然対流冷却時はA, B号機のみ使用)</p> <p>最高使用圧力 0.7MPa[gage]</p> <p>約1.25MPa[gage](重大事故等時における使用時の値)</p> <p>最高使用温度 50℃</p> <p>本体材料 炭素鋼</p> <p>(7) 常設電動注入ポンプ</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 ・原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備 <p>型式 うず巻式</p> <p>台数 1</p> <p>容量 約150m³/h</p> <p>揚程 約150m</p> <p>本体材料 ステンレス鋼</p> <p>(8) 燃料取替用水タンク</p>	<p>本体材料 鋳鋼</p> <p>(6) 代替淡水貯槽</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 ・原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備 ・水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備 ・使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備 ・重大事故等の収束に必要な水の供給設備 <p>個数 1</p> <p>容量 約5,000m³</p> <p>最高使用圧力 静水頭</p> <p>最高使用温度 66℃</p> <p>種類 ライニング槽</p> <p>(7) サプレッション・プール</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 ・原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備 ・重大事故等の収束に必要な水の供給設備 <p>個数 1</p> <p>容量 約3,400m³</p> <p>最高使用圧力 0.62MPa[gage]</p> <p>最高使用温度 200℃</p> <p>種類 鉄筋コンクリート 鋼製ライナ</p> <p>(8) 残留熱除去系熱交換器</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p>	

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考																																												
<p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高圧注入系 ・低圧注入系 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備 ・原子炉格納容器スプレイ設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 ・原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備 ・重大事故等の収束に必要となる水の供給設備 ・火災防護設備 <table border="0"> <tr><td>基 数</td><td>1</td></tr> <tr><td>容 量</td><td>約 2,100m³</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>大気圧</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>95℃</td></tr> <tr><td>ほう素濃度</td><td>約 2,500ppm</td></tr> <tr><td>ライニング材料</td><td>ステンレス鋼</td></tr> <tr><td>設 置 高 さ</td><td>EL. -0.8m</td></tr> <tr><td>距 離</td><td>約 50m (4号炉心より)</td></tr> </table> <p>(9) 復水タンク</p> <p>兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 ・2次系補給水設備 ・緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 ・原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための設備 ・重大事故等の収束に必要となる水の供給設備 <table border="0"> <tr><td>基 数</td><td>1</td></tr> <tr><td>容 量</td><td>約 1,200m³</td></tr> </table>	基 数	1	容 量	約 2,100m ³	最高使用圧力	大気圧	最高使用温度	95℃	ほう素濃度	約 2,500ppm	ライニング材料	ステンレス鋼	設 置 高 さ	EL. -0.8m	距 離	約 50m (4号炉心より)	基 数	1	容 量	約 1,200m ³	<ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 <table border="0"> <tr><td>型 式</td><td>縦型Uチューブ式</td></tr> <tr><td>基 数</td><td>2</td></tr> <tr><td>伝 熱 容 量</td><td>約 19.4×103kW (1基当たり) (原子炉停止時冷却モード)</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td></td></tr> <tr><td>管 側</td><td>3.45MPa [gage]</td></tr> <tr><td>胴 側</td><td>3.45MPa [gage]</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td></td></tr> <tr><td>管 側</td><td>249℃</td></tr> <tr><td>胴 側</td><td>249℃</td></tr> <tr><td>材 料</td><td></td></tr> <tr><td>管 側</td><td>白銅管</td></tr> <tr><td>胴 側</td><td>炭素鋼</td></tr> </table>	型 式	縦型Uチューブ式	基 数	2	伝 熱 容 量	約 19.4×103kW (1基当たり) (原子炉停止時冷却モード)	最高使用圧力		管 側	3.45MPa [gage]	胴 側	3.45MPa [gage]	最高使用温度		管 側	249℃	胴 側	249℃	材 料		管 側	白銅管	胴 側	炭素鋼	
基 数	1																																													
容 量	約 2,100m ³																																													
最高使用圧力	大気圧																																													
最高使用温度	95℃																																													
ほう素濃度	約 2,500ppm																																													
ライニング材料	ステンレス鋼																																													
設 置 高 さ	EL. -0.8m																																													
距 離	約 50m (4号炉心より)																																													
基 数	1																																													
容 量	約 1,200m ³																																													
型 式	縦型Uチューブ式																																													
基 数	2																																													
伝 熱 容 量	約 19.4×103kW (1基当たり) (原子炉停止時冷却モード)																																													
最高使用圧力																																														
管 側	3.45MPa [gage]																																													
胴 側	3.45MPa [gage]																																													
最高使用温度																																														
管 側	249℃																																													
胴 側	249℃																																													
材 料																																														
管 側	白銅管																																													
胴 側	炭素鋼																																													

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
ライニング材料 ステンレス鋼 設置高さ EL. +10.8m 距離 約40m（4号炉心より）		
(10) 格納容器スプレイポンプ 兼用する設備は以下のとおり。 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・原子炉格納容器スプレイ設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 ・原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための設備 ・重大事故等の収束に必要となる水の供給設備 ・火災防護設備 型式 うず巻式 台数 2 容量 約1,200m ³ /h(1台当たり) 最高使用圧力 2.7MPa[gage] 最高使用温度 150℃ 揚程 約175m 本体材料 ステンレス鋼		
(11) 格納容器スプレイ冷却器 兼用する設備は以下のとおり。 ・原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・原子炉格納容器スプレイ設備 ・原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 ・原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための設備 ・重大事故等の収束に必要となる水の供給設備 ・火災防護設備 型式 横置U字管式 基数 2 伝熱容量 約23,6MW（1基当たり） 最高使用圧力 管側 2.7MPa[gage] 胴側 1.4MPa[gage]		

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

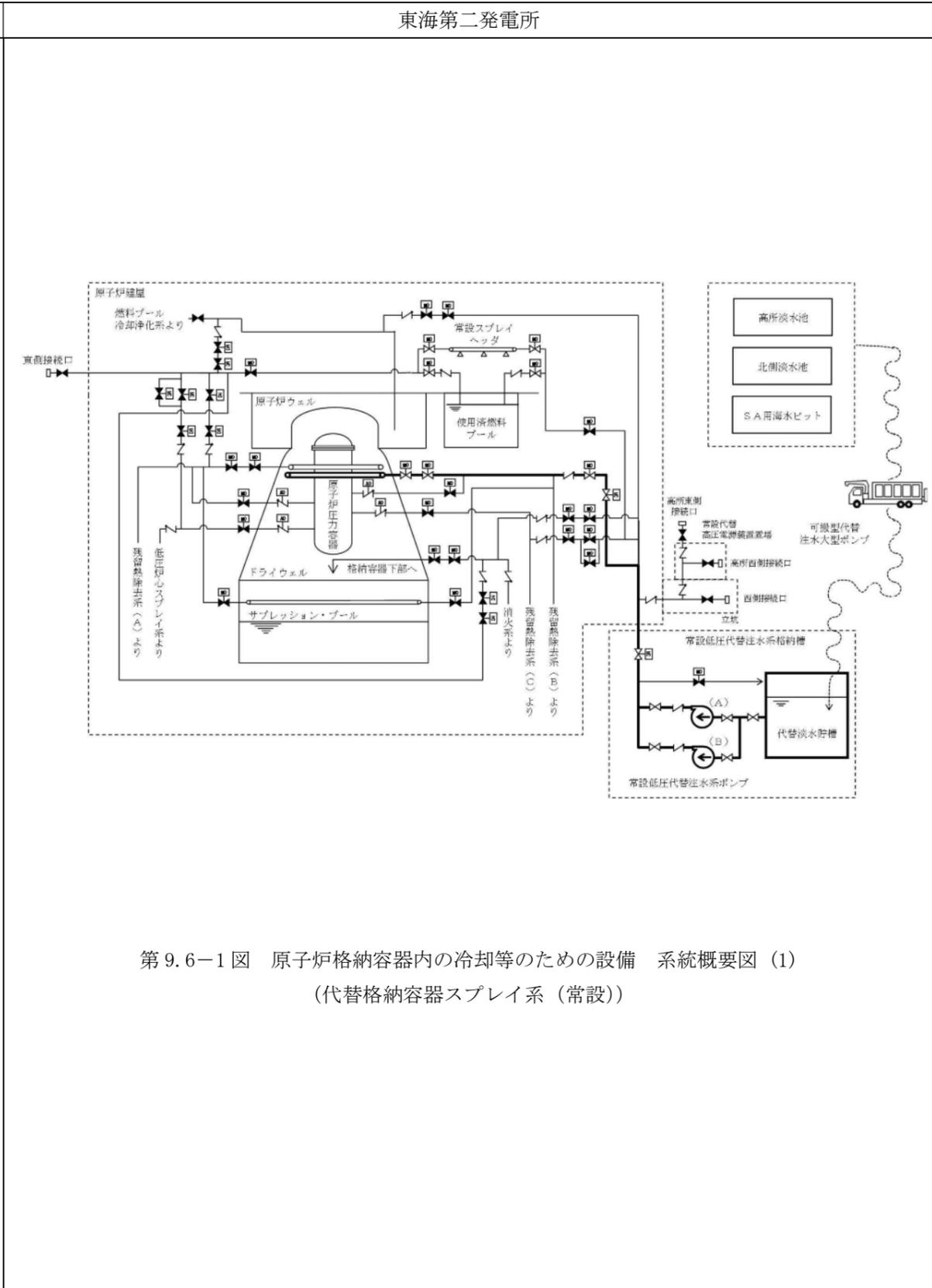
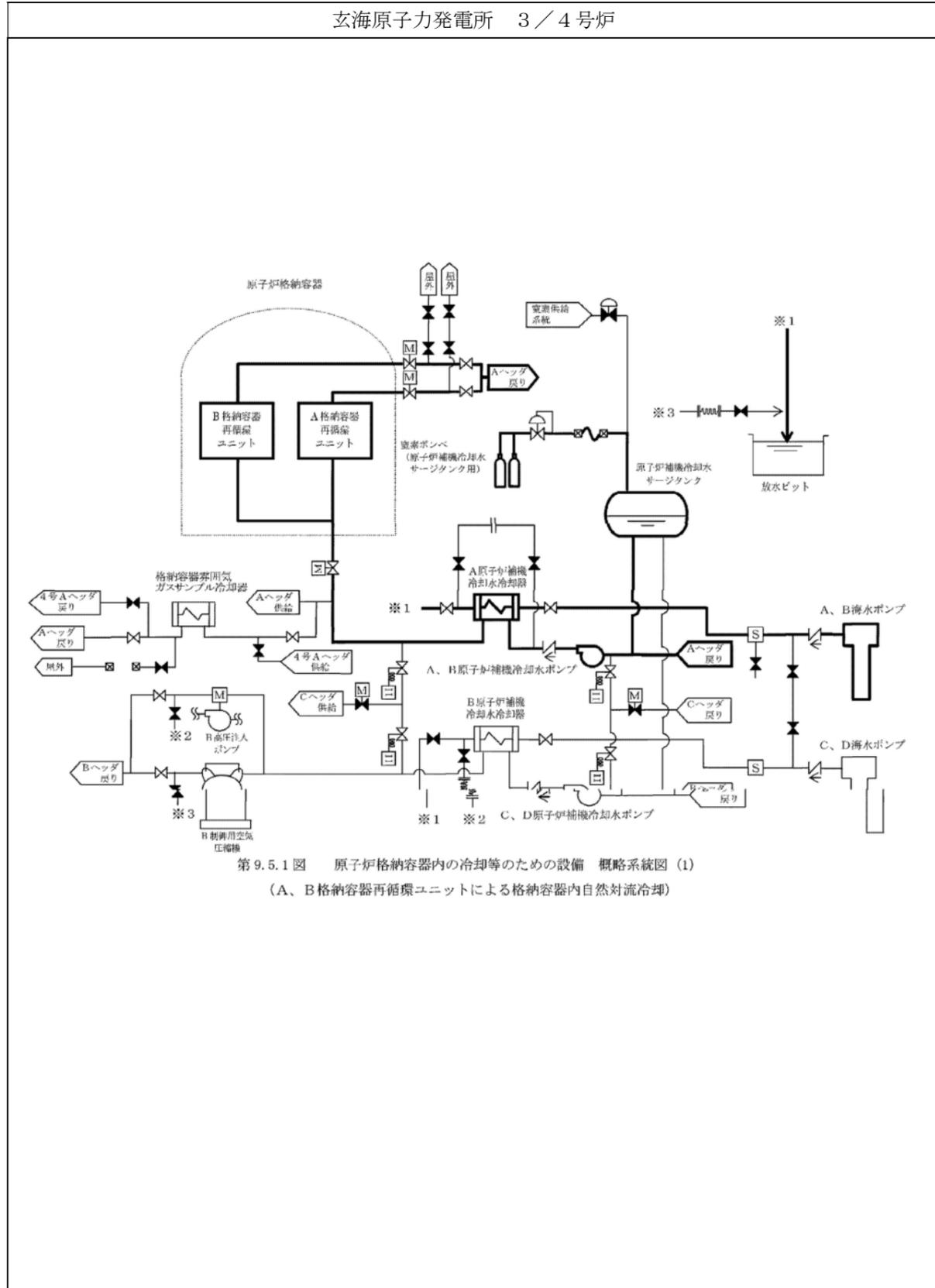
玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
最高使用温度 管側 150℃ 胴側 95℃ 材 料 管側 ステンレス鋼 銅側 炭素鋼		
(12) 格納容器再循環サンプ 兼用する設備は以下のとおり。 ・ 高圧注入系 ・ 低圧注入系 ・ 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・ 原子炉格納容器スプレイ設備 ・ 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・ 重大事故等の収束に必要となる水の供給設備 型 式 プール形 材 料 鉄筋コンクリート 基 数 2		
(13) 格納容器再循環サンプスクリーン 兼用する設備は以下のとおり。 ・ 高圧注入系 ・ 低圧注入系 ・ 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 ・ 原子炉格納容器スプレイ設備 ・ 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 ・ 重大事故等の収束に必要となる水の供給設備 型 式 ディスク型 容 量 約 2,540m ³ /h(1基当たり) 最高使用温度 144℃ 材 料 ステンレス鋼 基 数 2		

玄海原子力発電所／東海第二発電所 基本設計比較表 【対象項目： 第49条】

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考																														
<p>第9.5.2表 原子炉格納容器内の冷却等のための設備(可搬型)の設備仕様</p> <p>(1) 窒素ポンベ(原子炉補機冷却水サージタンク用) 兼用する設備は以下のとおり、</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 <table border="0"> <tr><td>種類</td><td>鋼製容器</td></tr> <tr><td>個数</td><td>6(予備1)</td></tr> <tr><td>容量</td><td>約20.1ℓ(1個当たり)</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>14.7MPa[gage]</td></tr> <tr><td>供給圧力</td><td>0.34MPa[gage](減圧後圧力)</td></tr> </table> <p>(2) 移動式大容量ポンプ車(3号及び4号炉共用) 兼用する設備は以下のとおり、</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための設備 重大事故等の収束に必要となる水の供給設備 <table border="0"> <tr><td>型式</td><td>うず巻式</td></tr> <tr><td>台数</td><td>4*1</td></tr> <tr><td>容量</td><td>約1,320m³/h(1台当たり)</td></tr> <tr><td>揚程</td><td>約140m</td></tr> </table> <p>*1 保有台数を示す、必要台数は2台(予備1台)とする。</p>	種類	鋼製容器	個数	6(予備1)	容量	約20.1ℓ(1個当たり)	最高使用圧力	14.7MPa[gage]	供給圧力	0.34MPa[gage](減圧後圧力)	型式	うず巻式	台数	4*1	容量	約1,320m ³ /h(1台当たり)	揚程	約140m	<p>第9.6-2表 原子炉格納容器内の冷却等のための設備(可搬型)の設備仕様</p> <p>(1) 可搬型代替注水大型ポンプ 兼用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための設備 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための設備 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための設備 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための設備 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備 重大事故等の収束に必要となる水の供給設備 <table border="0"> <tr><td>型式</td><td>うず巻形</td></tr> <tr><td>個数</td><td>4(予備1)</td></tr> <tr><td>容量</td><td>約1,320m³/h(1個当たり)</td></tr> <tr><td>全揚程</td><td>約140m</td></tr> <tr><td>最高使用圧力</td><td>1.4MPa[gage]</td></tr> <tr><td>最高使用温度</td><td>60℃</td></tr> </table>	型式	うず巻形	個数	4(予備1)	容量	約1,320m ³ /h(1個当たり)	全揚程	約140m	最高使用圧力	1.4MPa[gage]	最高使用温度	60℃	
種類	鋼製容器																															
個数	6(予備1)																															
容量	約20.1ℓ(1個当たり)																															
最高使用圧力	14.7MPa[gage]																															
供給圧力	0.34MPa[gage](減圧後圧力)																															
型式	うず巻式																															
台数	4*1																															
容量	約1,320m ³ /h(1台当たり)																															
揚程	約140m																															
型式	うず巻形																															
個数	4(予備1)																															
容量	約1,320m ³ /h(1個当たり)																															
全揚程	約140m																															
最高使用圧力	1.4MPa[gage]																															
最高使用温度	60℃																															

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

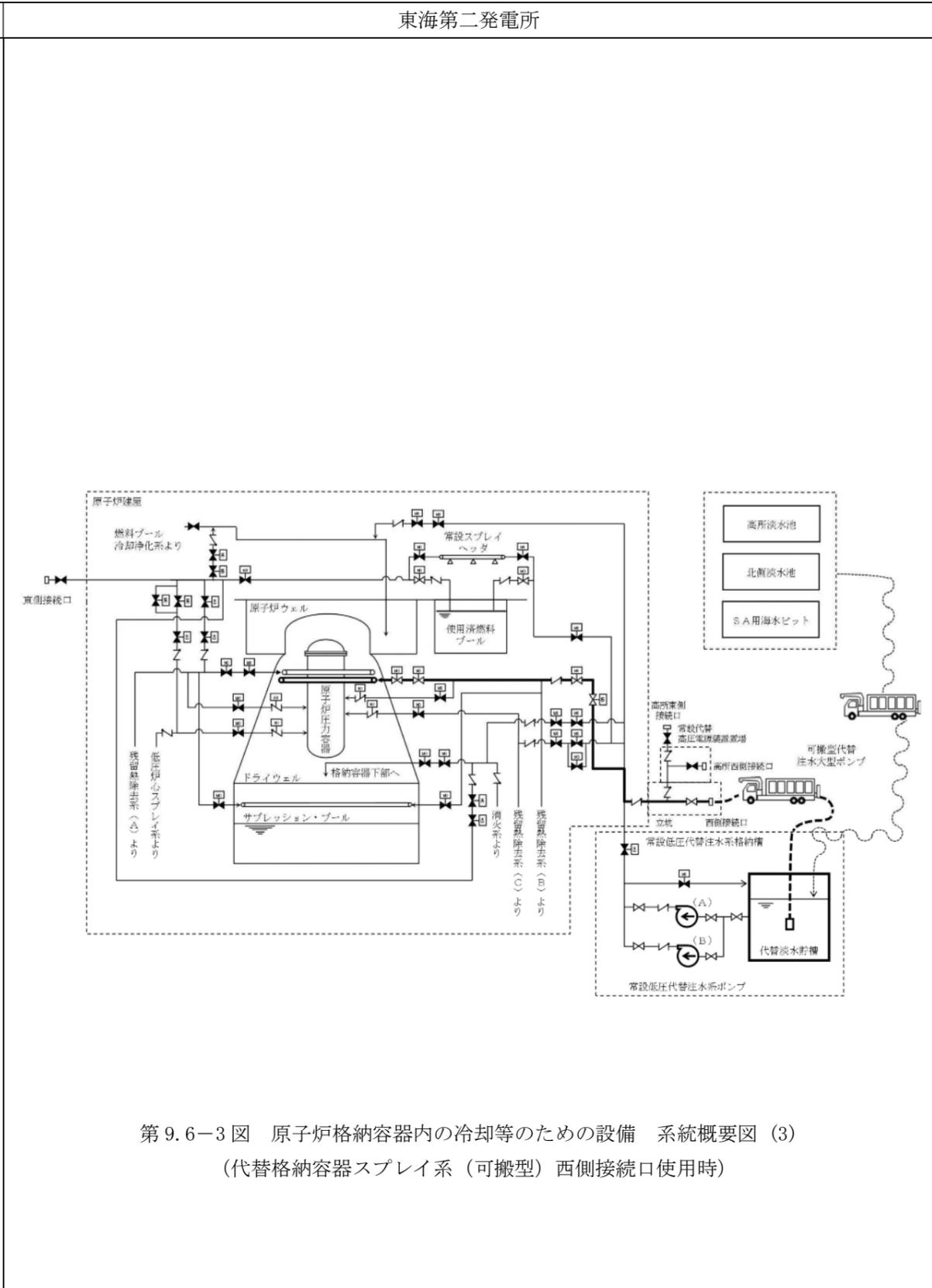
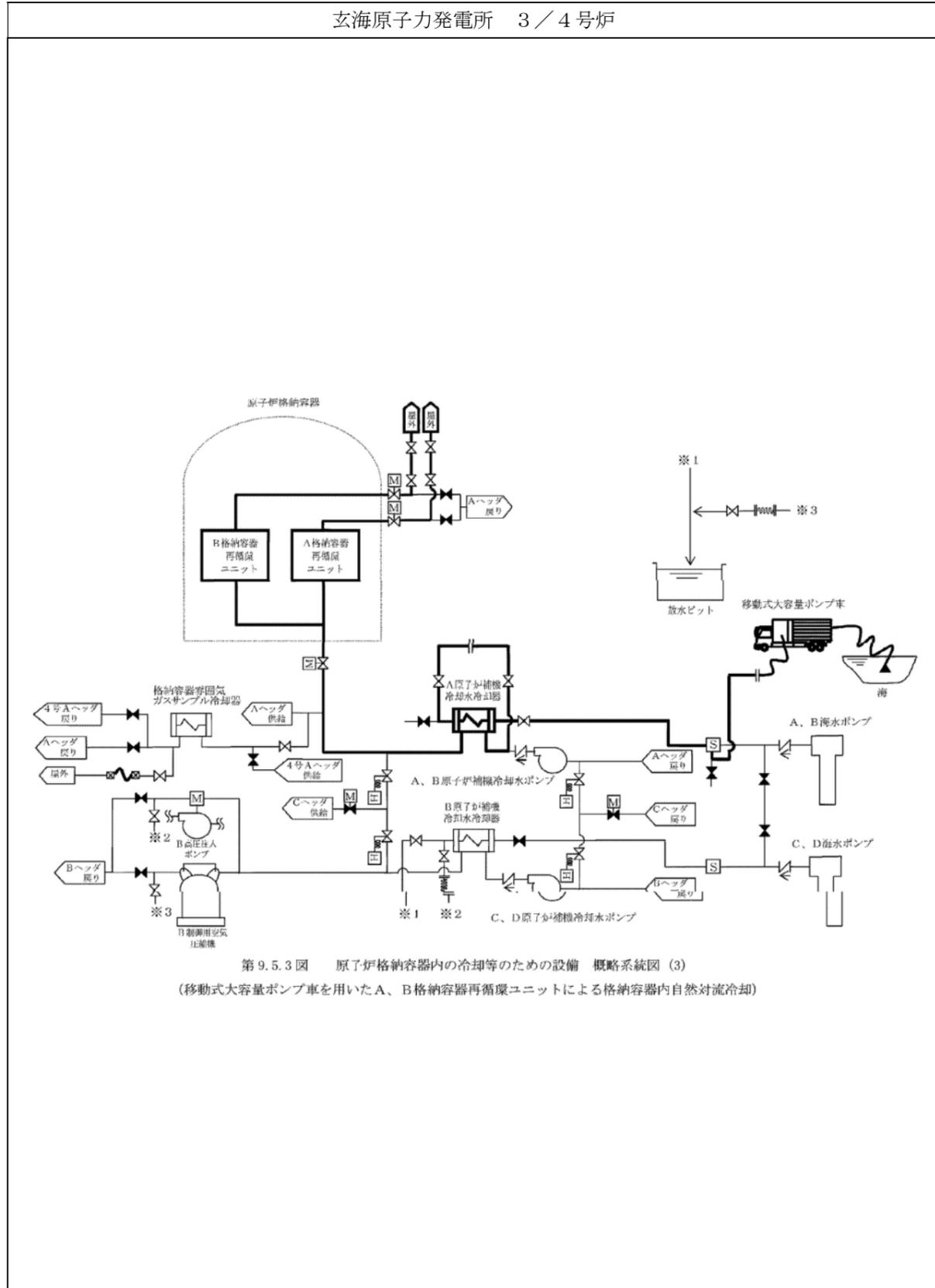


備考

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

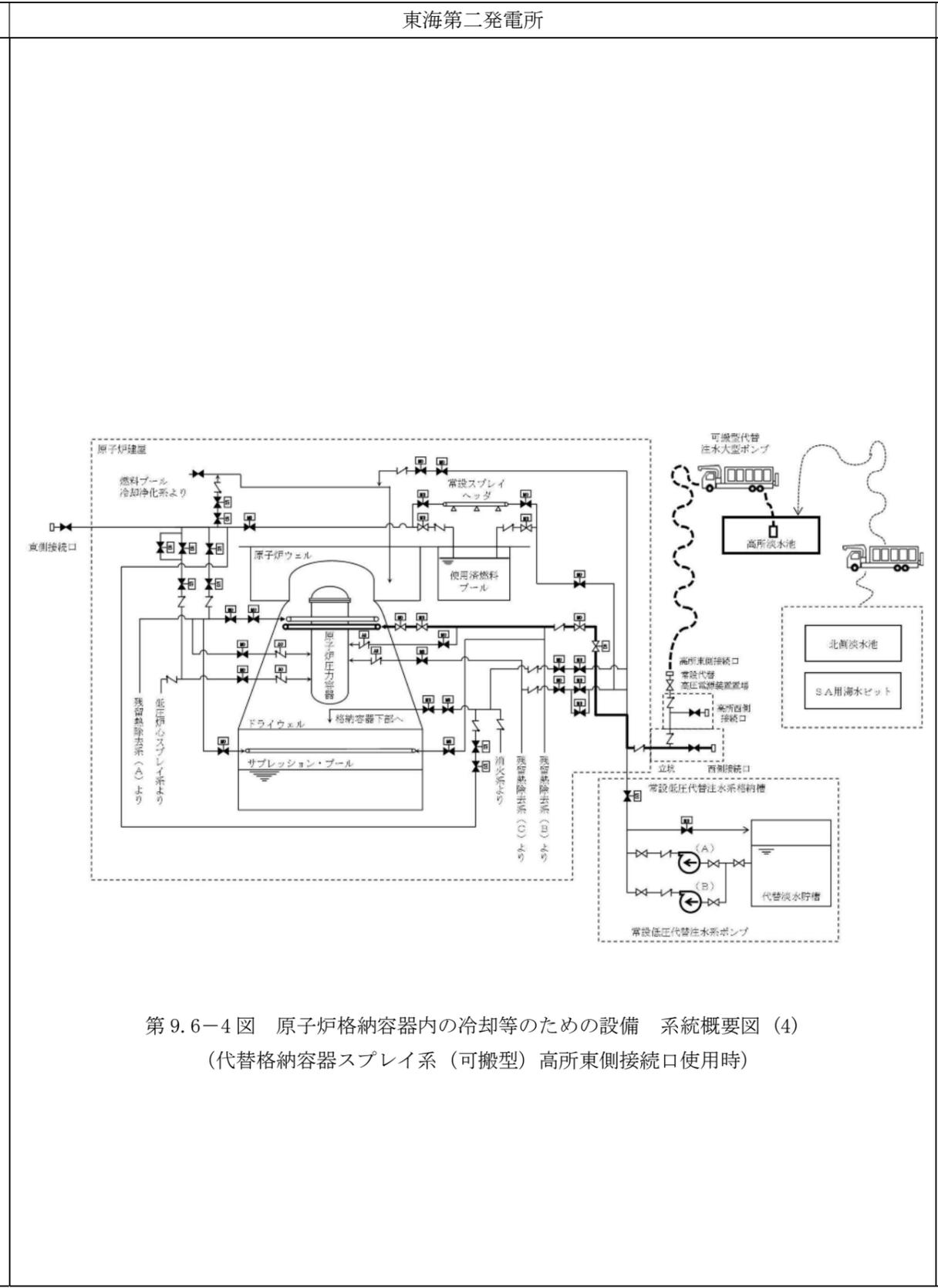
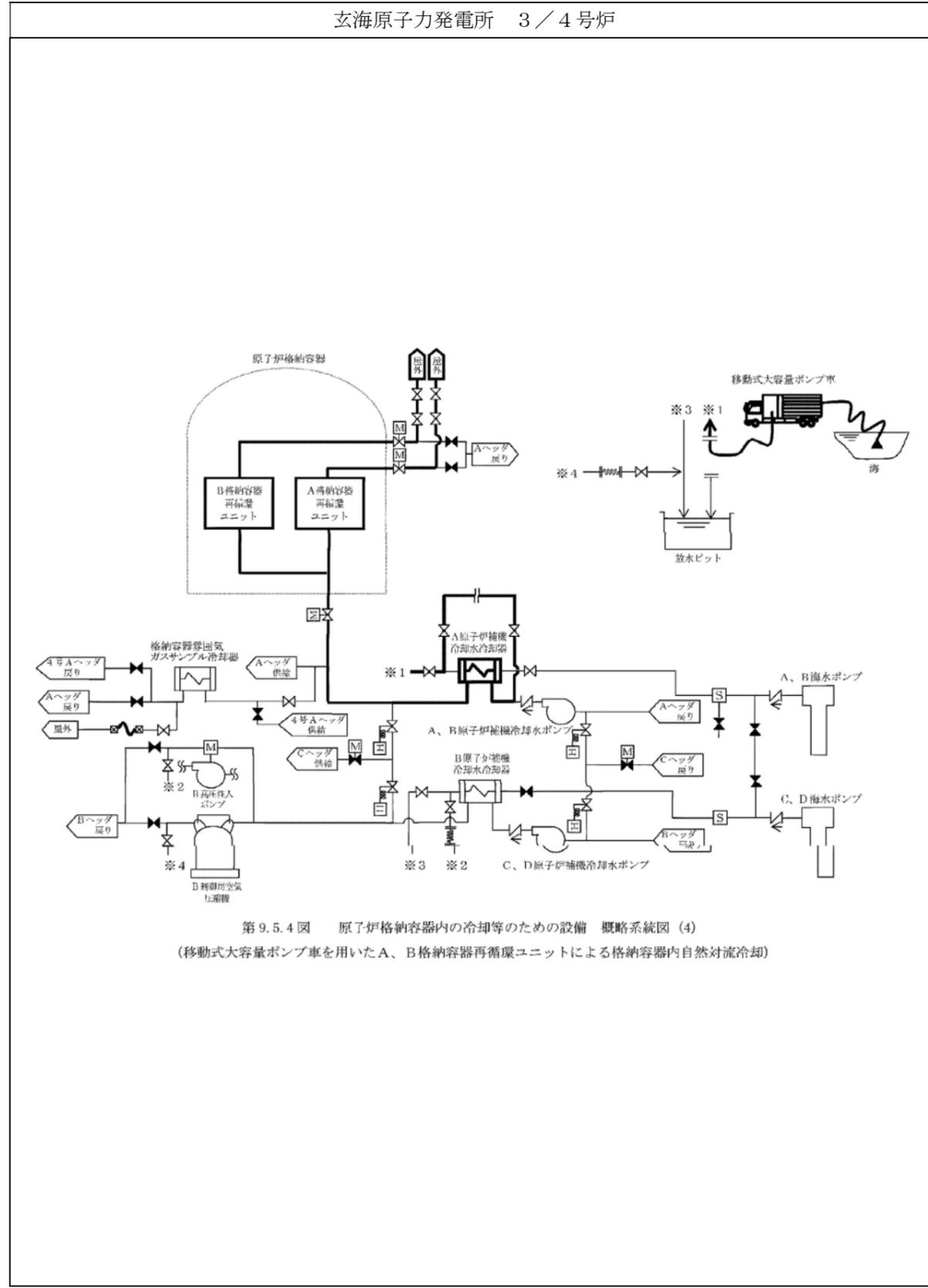
玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
<p>第9.5.2図 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 概略系統図(2) (代替格納容器スプレイ)</p>	<p>第9.6-2図 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 系統概要図(2) (代替格納容器スプレイ系(可搬型) 東側接続口使用時)</p>	<p>備考</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応



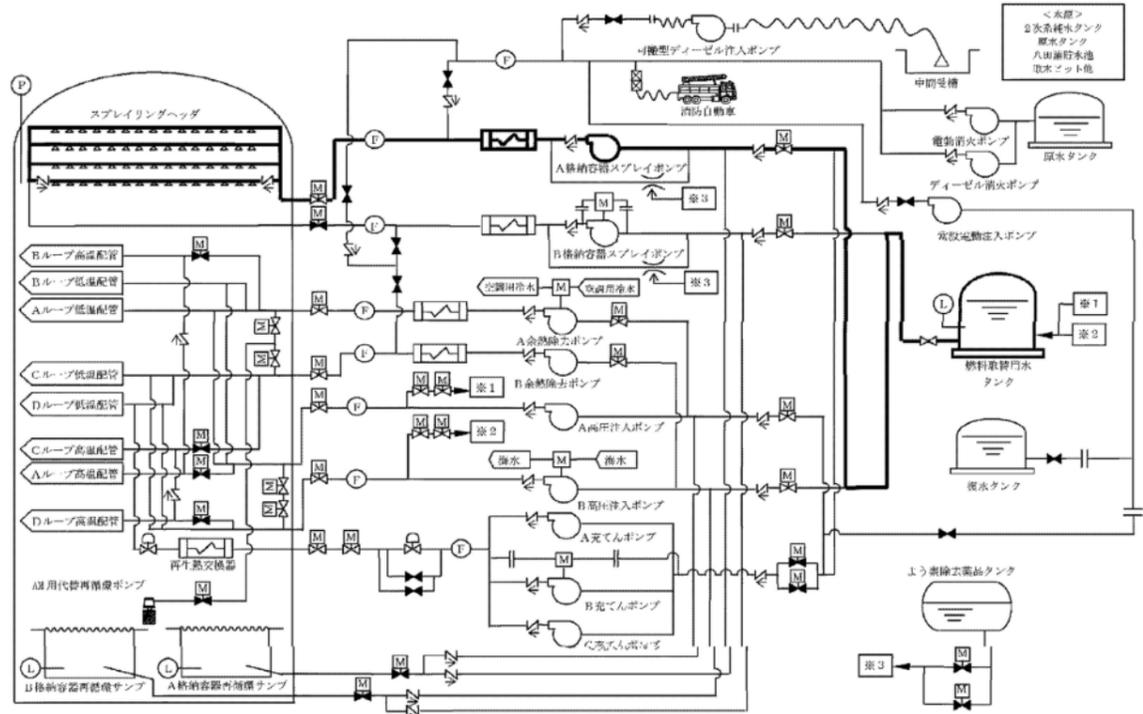
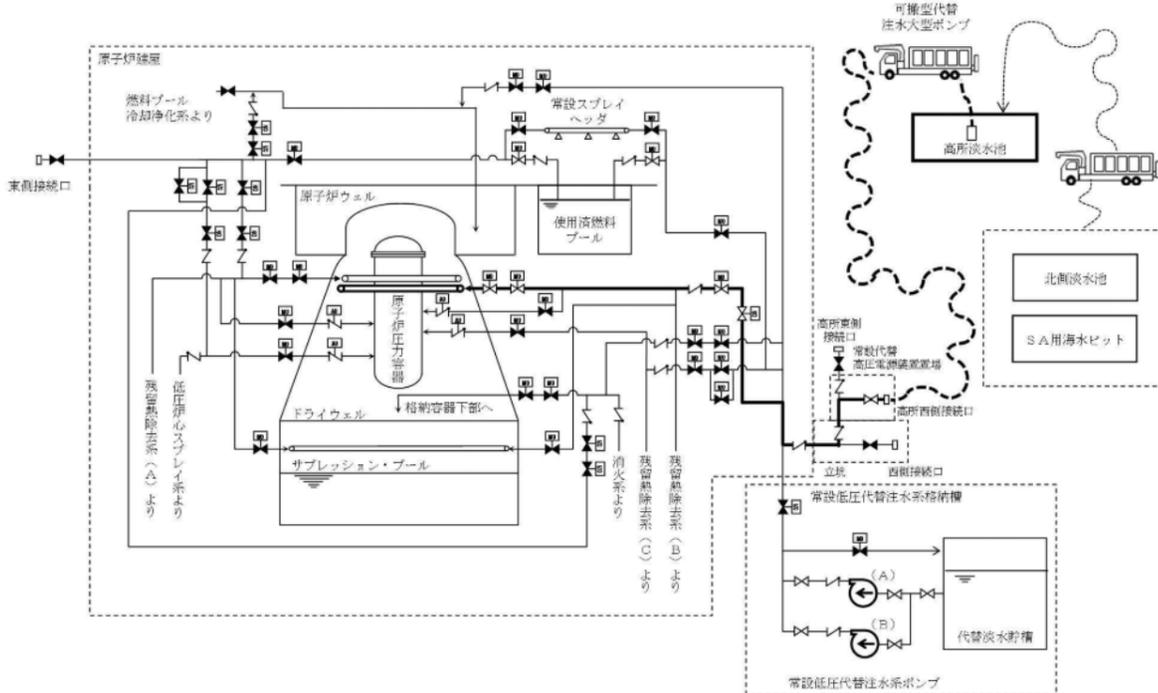
備考

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

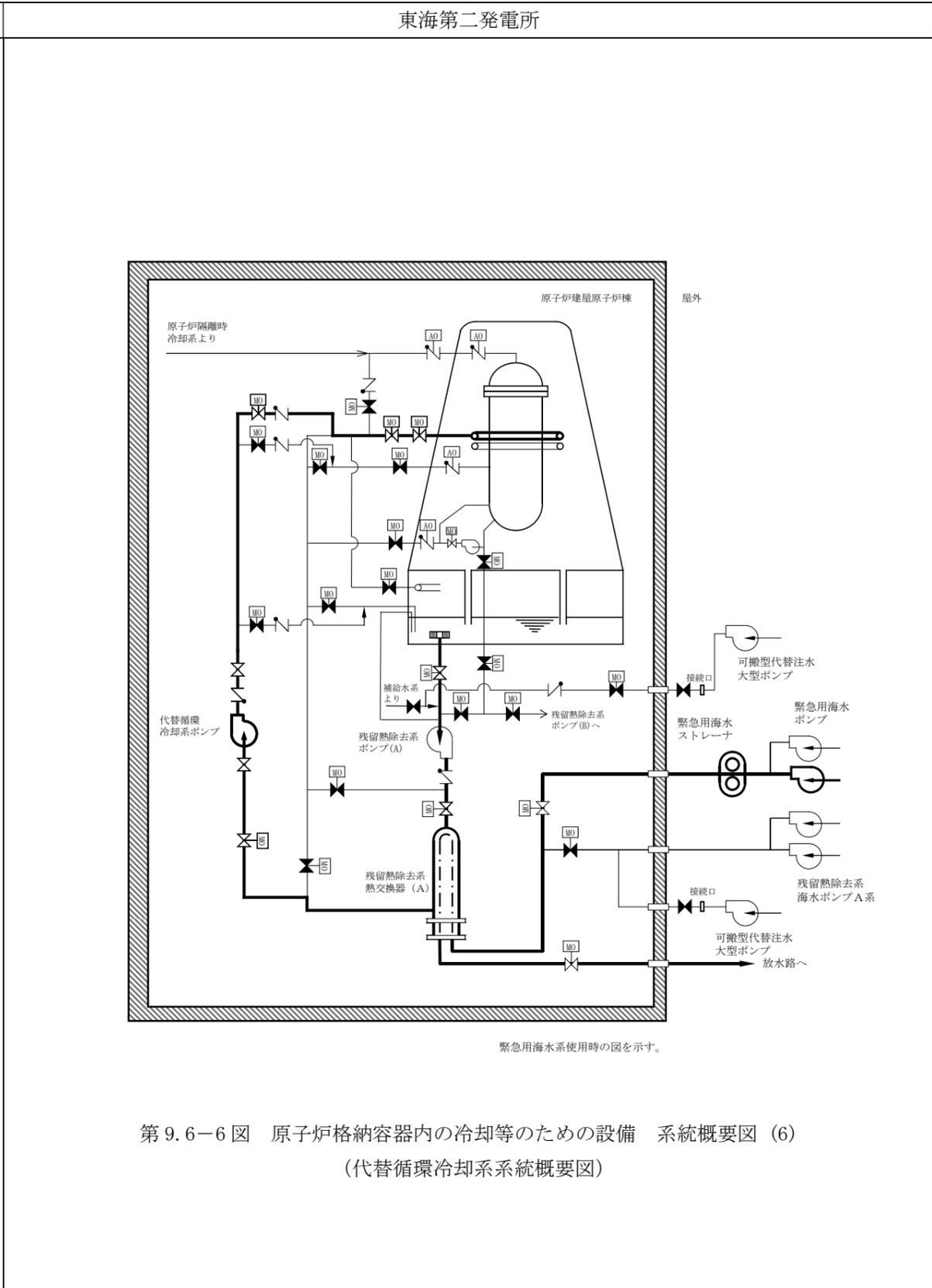
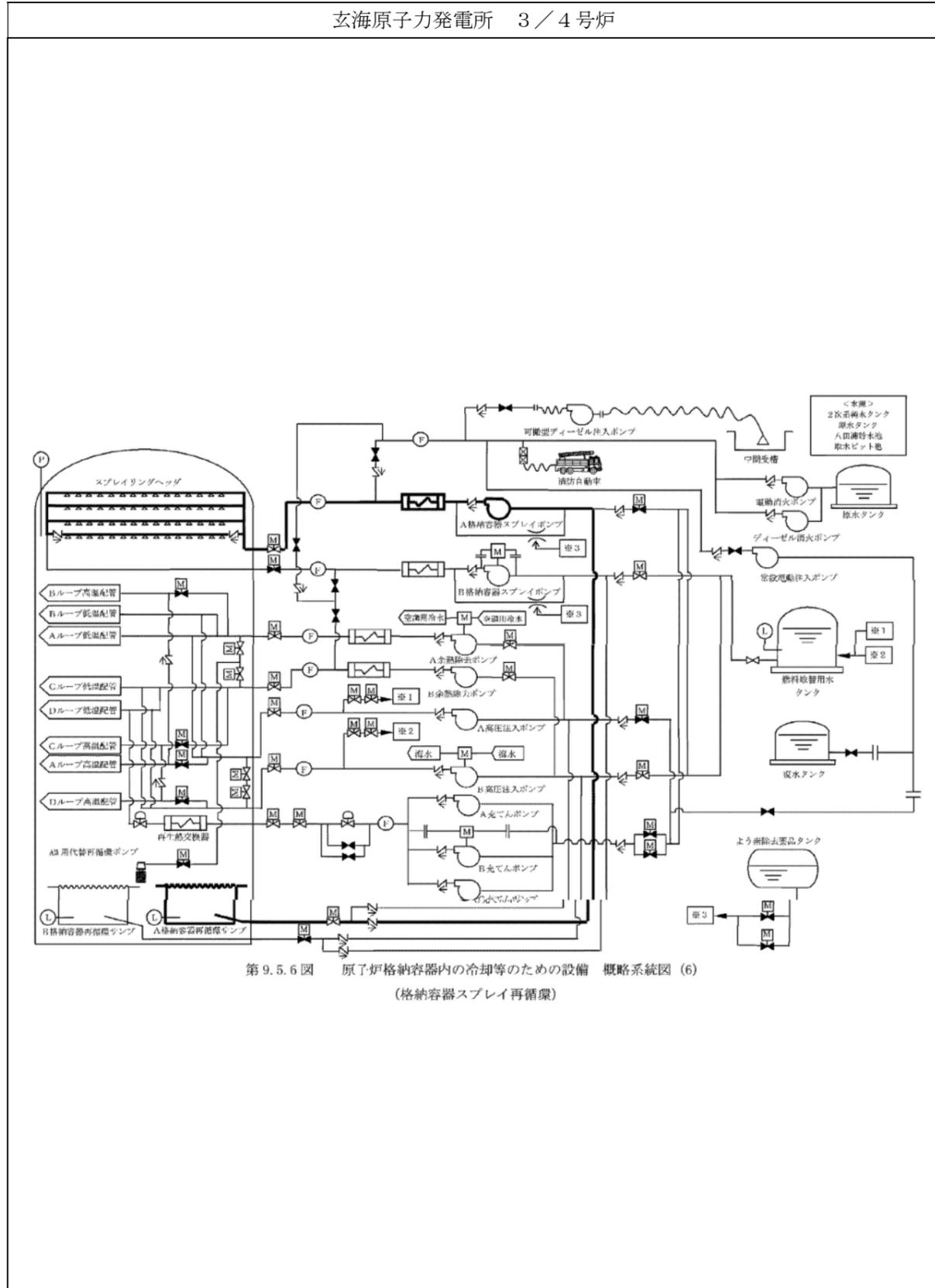


備考

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

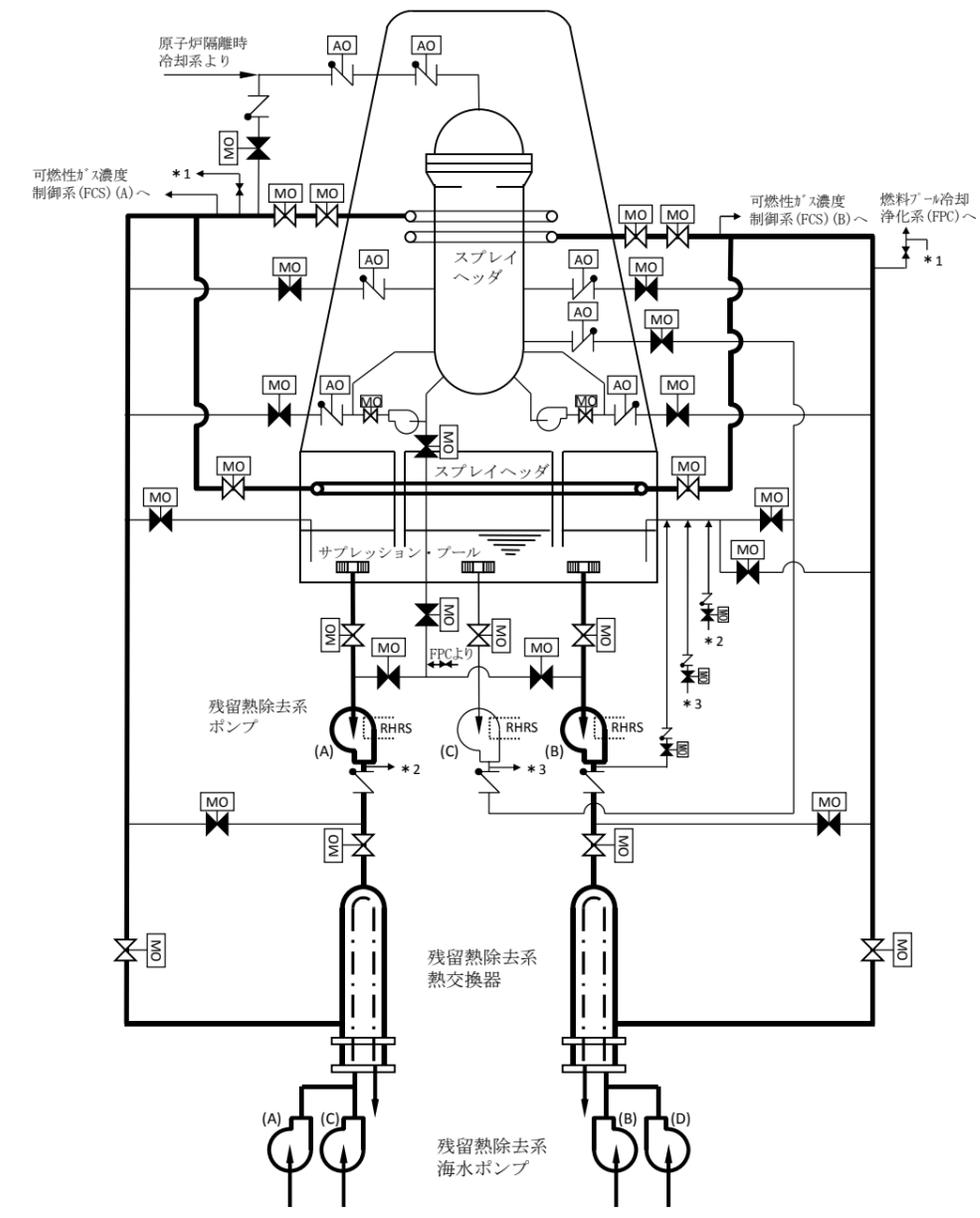
玄海原子力発電所 3 / 4号炉	東海第二発電所	備考
 <p>第9.5.5図 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 概略系統図(5) (格納容器スプレイ)</p>	 <p>第9.6-5図 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 系統概要図(5) (代替格納容器スプレイ系(可搬型)高所西側接続口使用時)</p>	<p>備考</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応



備考

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3／4号炉	東海第二発電所	備考
	 <p>第9.6-7図 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 系統概要図 (7) (残留熱除去系 (格納容器スプレイ冷却系))</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違等（実質的な相違なし）
 黄色ハッチ：ヒアリングコメント対応

玄海原子力発電所 3 / 4号炉	東海第二発電所	備考
	<p>第 9.6-8 図 原子炉格納容器内の冷却等のための設備 系統概要図 (8) (残留熱除去系 (サプレッション・プール冷却系))</p>	